

## 2.2.1 地層区分の整理

### ②南側壁面の背後法面天端付近の詳細スケッチ-まとめ(1/3)-

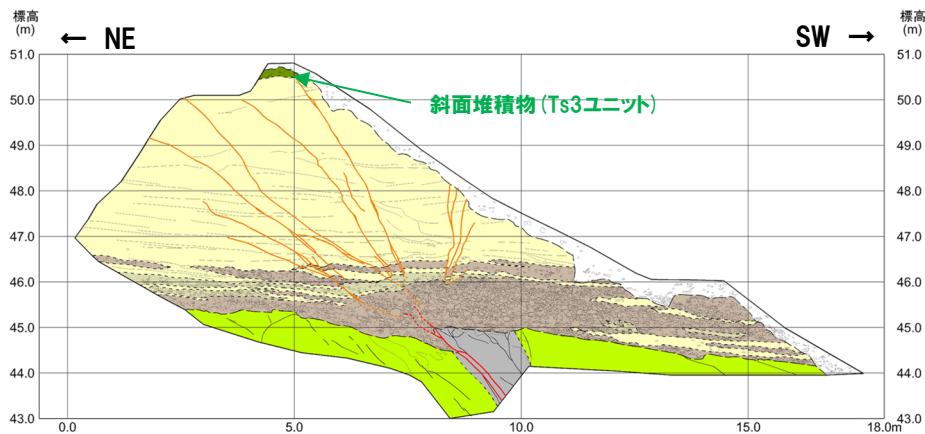
- 先に整理した各堆積物及び盛土の特徴に基づき、南側壁面の背後法面天端付近の詳細スケッチを作成した(詳細はP98～P137参照)。
- 詳細スケッチは、Ts3ユニットの分布を広く確認するため、海側壁面も対象とし、作成に当たっては、R2.4.16審査会合以降、フリーフレームの追加撤去を実施した。
- 対象壁面は以下のとおり。
  - ・側溝設置跡(海側壁面)(P98～P105参照)
  - ・側溝設置跡(山側壁面)(P106～P113参照)
  - ・小段部海側壁面(P114～P121参照)
  - ・海側壁面(P122～P131参照)
  - ・横断掘削箇所(P132～P137参照)
- なお、Ts3ユニットの下部に認められる遷移部は、P46の各堆積物及び盛土の特徴の整理結果に示すとおり、シルト混じり砂であり、細粒～中粒砂がパッチ状に分布又はシルトの偽礫が認められるものである。
- このため、詳細スケッチに示すTs3ユニットのうち、以下の範囲を遷移部と認定し、その範囲を詳細スケッチに示した。
  - ・遷移部を確認しているはぎとり転写試料①～③等(P54～P71参照)と同様、主にシルト混じり砂からなる下部及び主に礫混じりシルト混じり砂からなる上部が認められる範囲のうちその下部



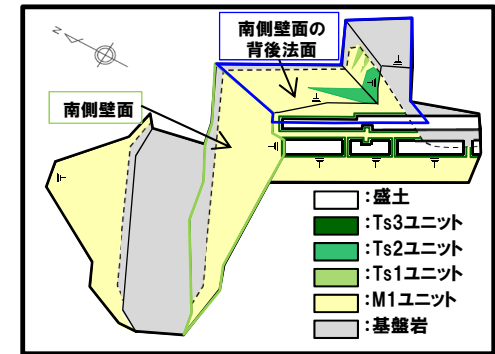
- Ts3ユニットは一部断続的ではあるが、南側壁面の背後法面天端付近において、広く分布する状況が認められる。

# 2.2.1 地層区分の整理

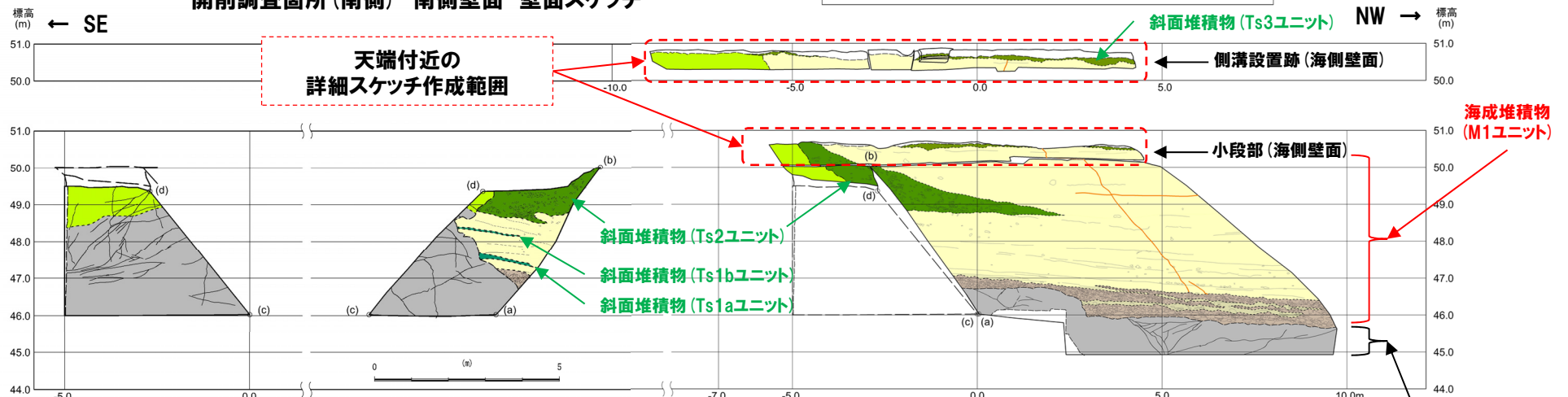
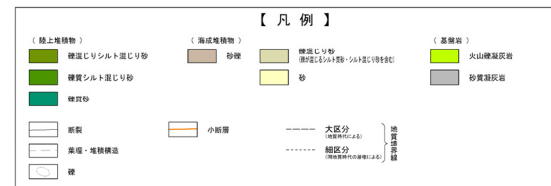
## ②南側壁面の背後法面天端付近の詳細スケッチ-まとめ(2/3)-



開削調査箇所(南側) 南側壁面 壁面スケッチ



開削調査箇所(南側) 平面模式図

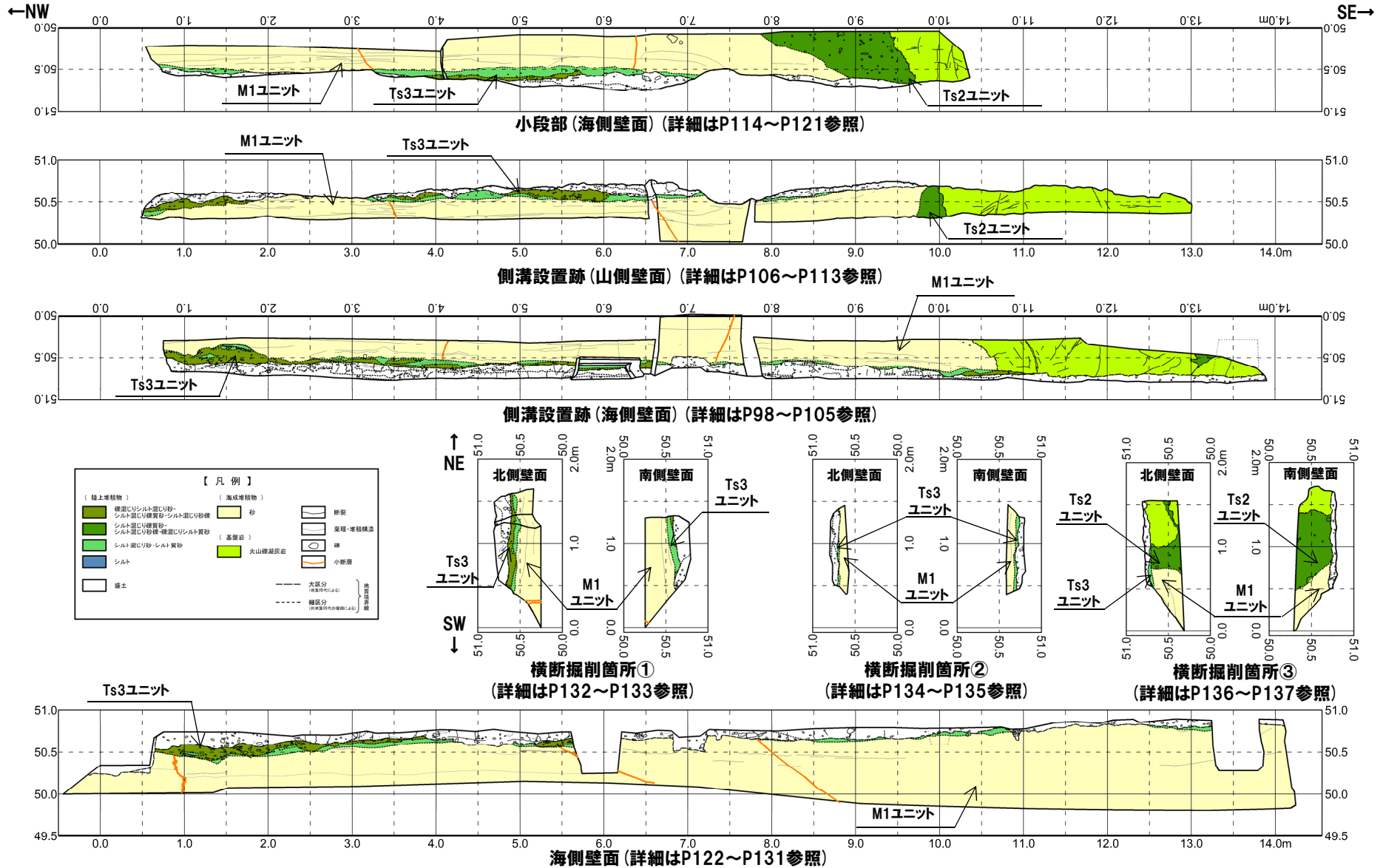


開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ

基盤岩

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②南側壁面の背後法面天端付近の詳細スケッチ-まとめ(3/3)-

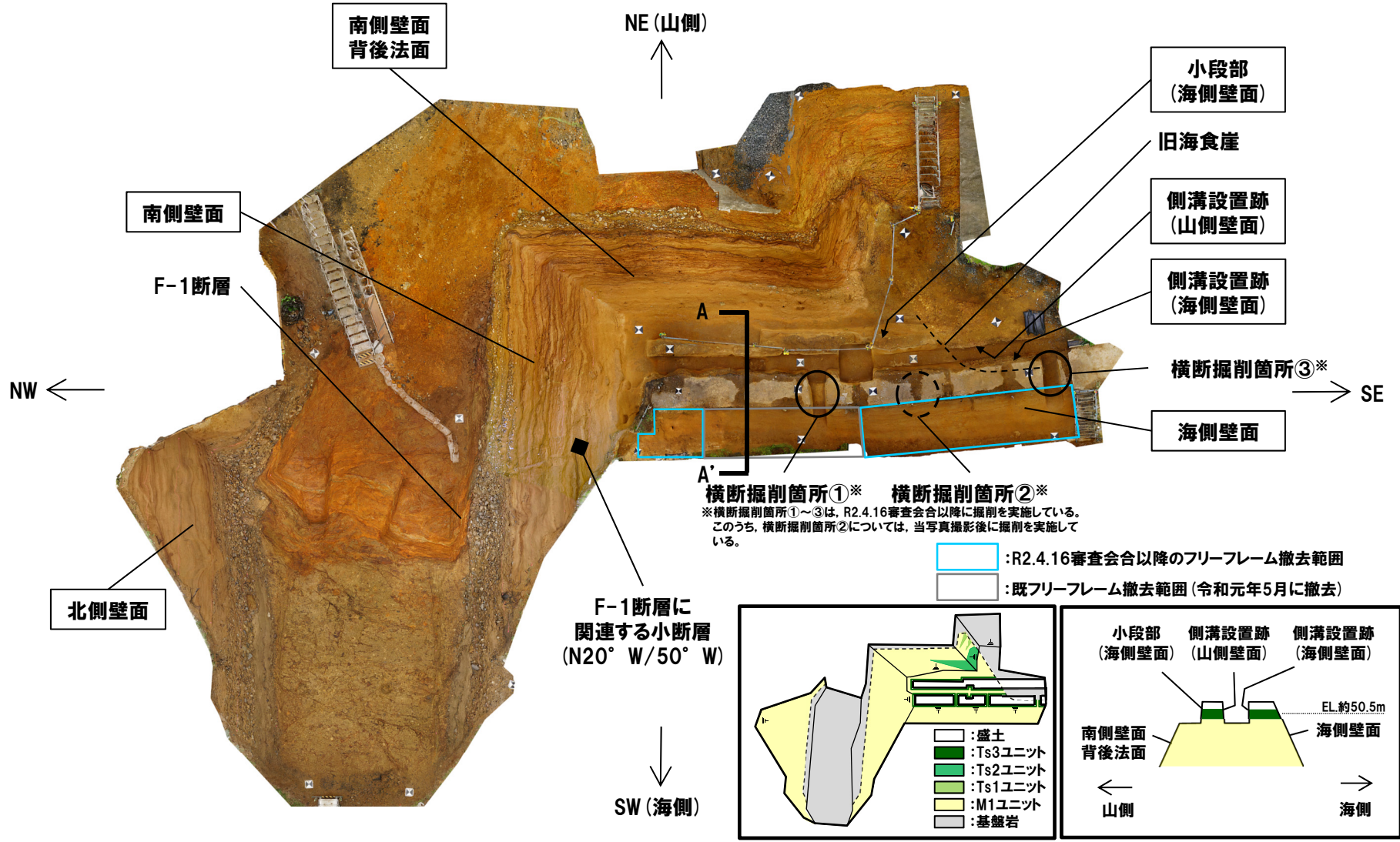


開削調査箇所(南側)南側壁面の背後法面天端付近スケッチ展開図

余白

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-1 開削調査箇所(南側)の全体俯瞰図



※横断掘削箇所①～③は、R2.4.16審査会合以降に掘削を実施している。  
 このうち、横断掘削箇所②については、当写真撮影後に掘削を実施している。

□ : R2.4.16審査会合以降のフリーフレーム撤去範囲  
 □ : 既フリーフレーム撤去範囲(令和元年5月に撤去)

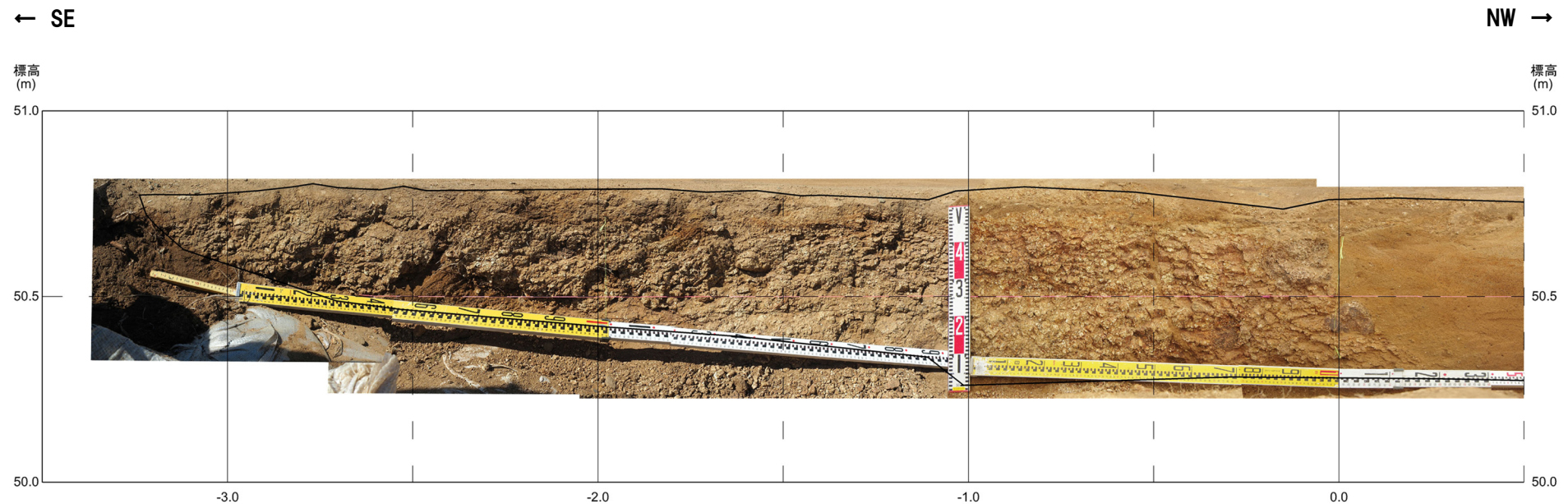
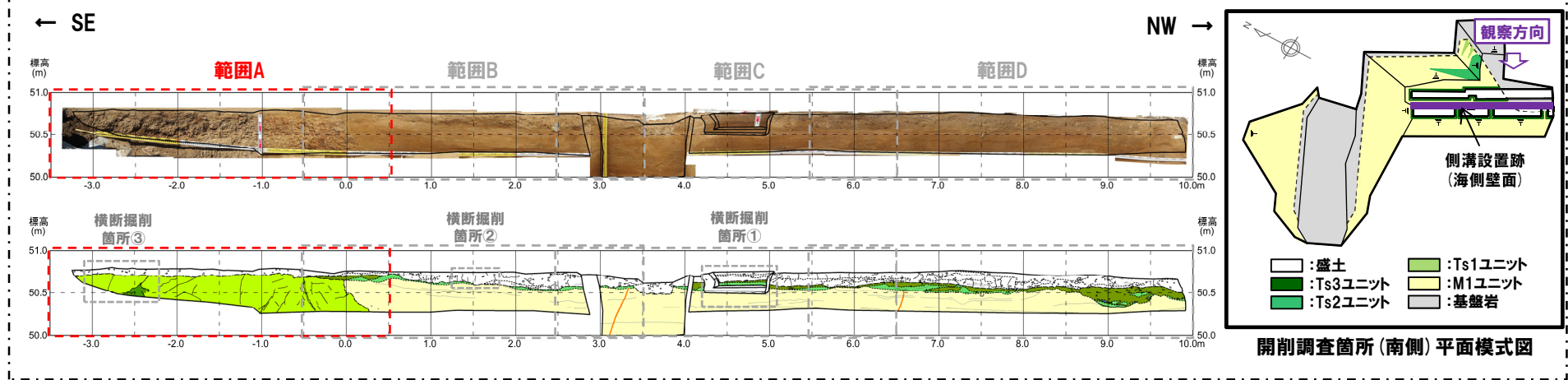
平面模式図

南側壁面の背後法面 天端付近 断面模式図(A-A' 断面)

開削調査箇所(南側) 露頭状況

# 2.2.1 地層区分の整理

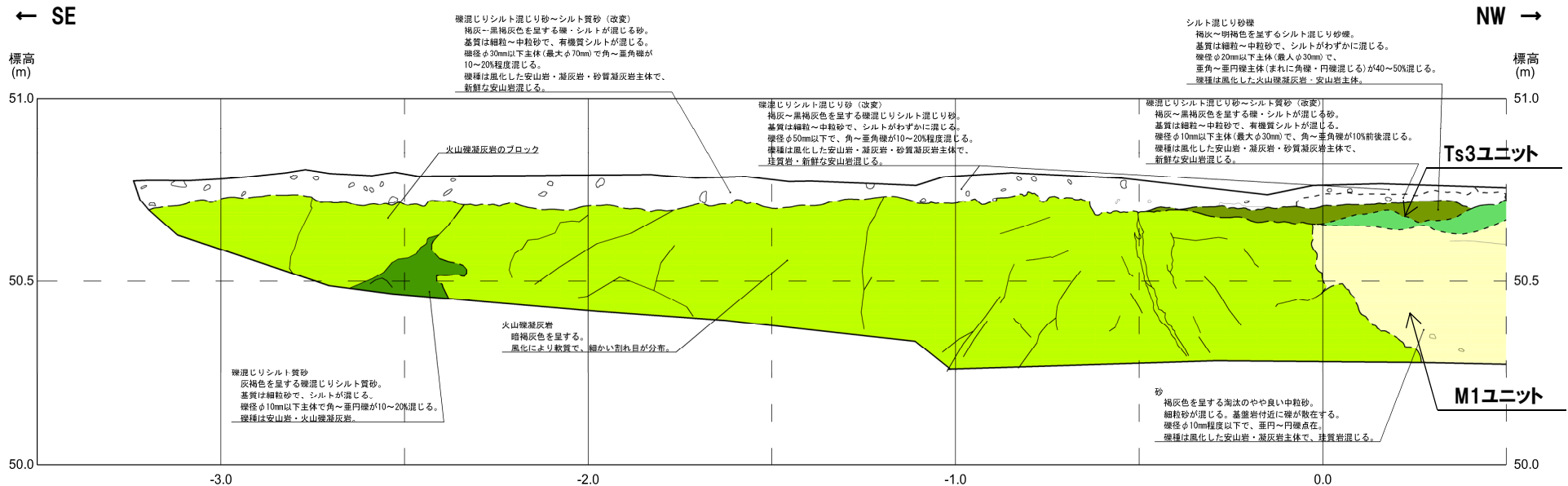
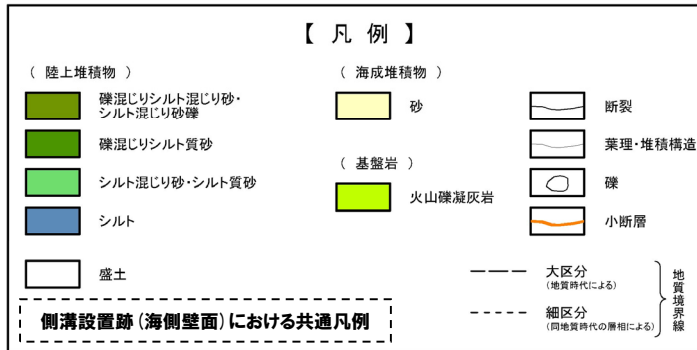
## ②-2 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(1/8)



開削調査箇所(南側)側溝設置跡(海側壁面) 写真(範囲A)

# 2.2.1 地層区分の整理

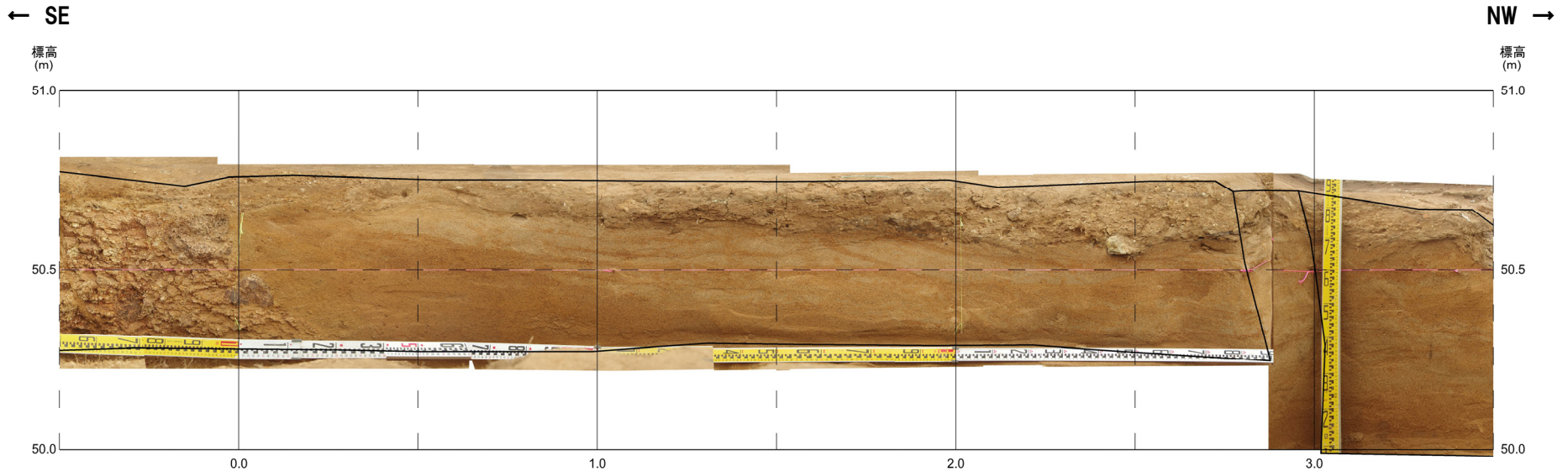
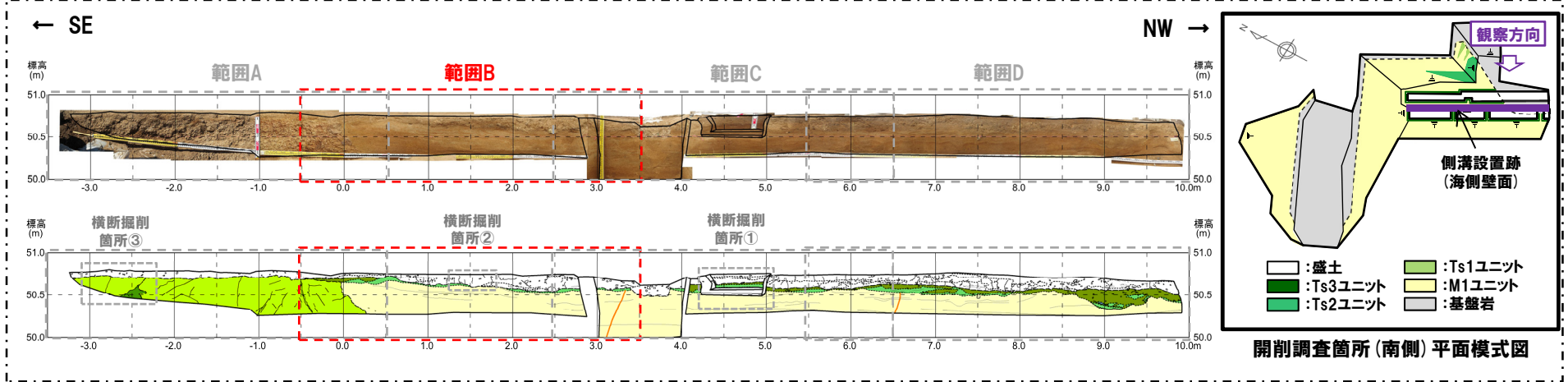
## ②-2 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(2/8)



開削調査箇所(南側)側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲A)

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-2 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(3/8)

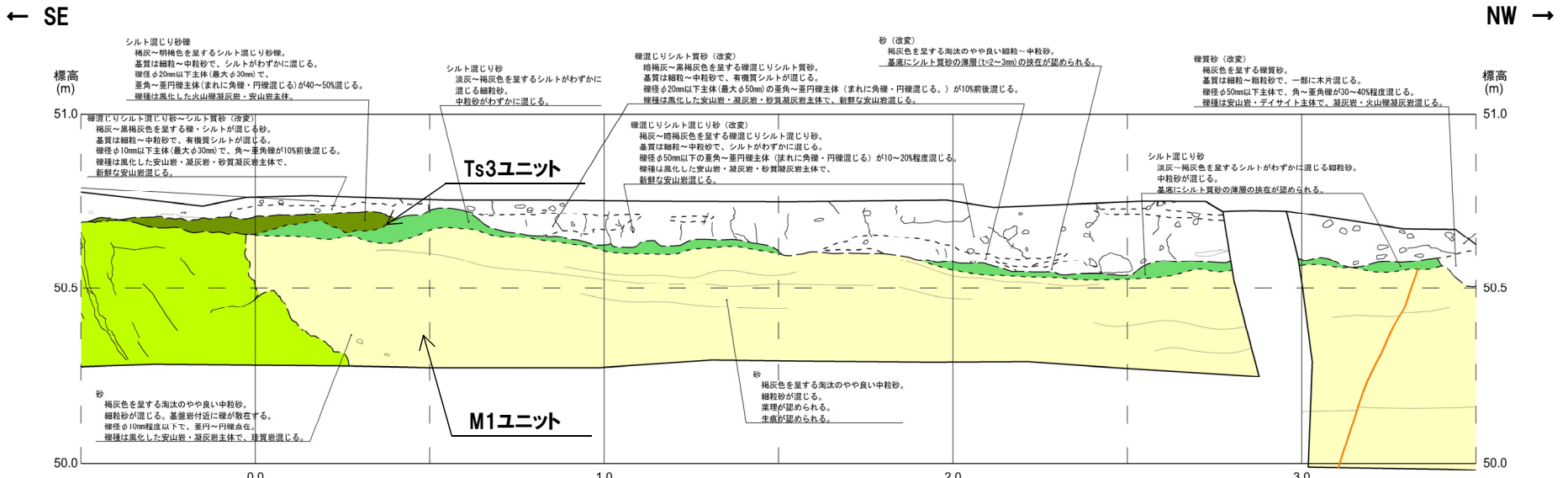
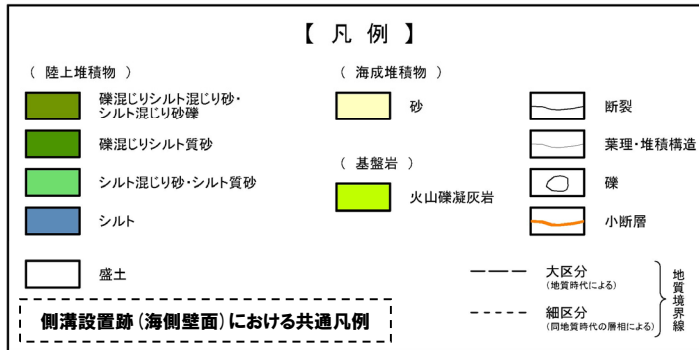


開削調査箇所(南側)側溝設置跡(海側壁面) 写真(範囲B)



# 2.2.1 地層区分の整理

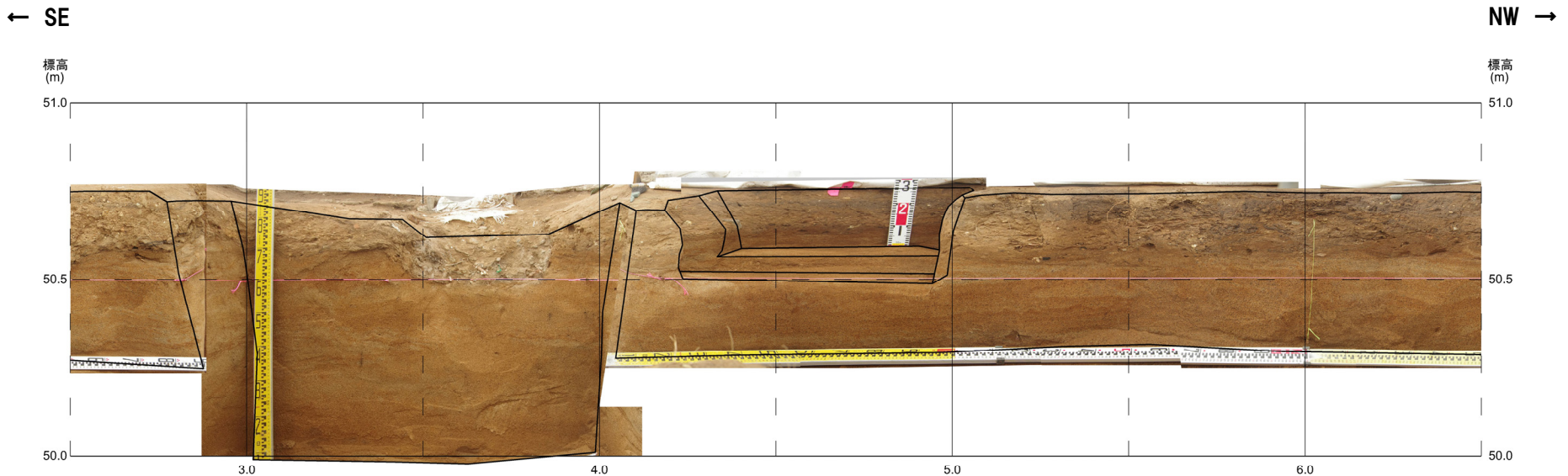
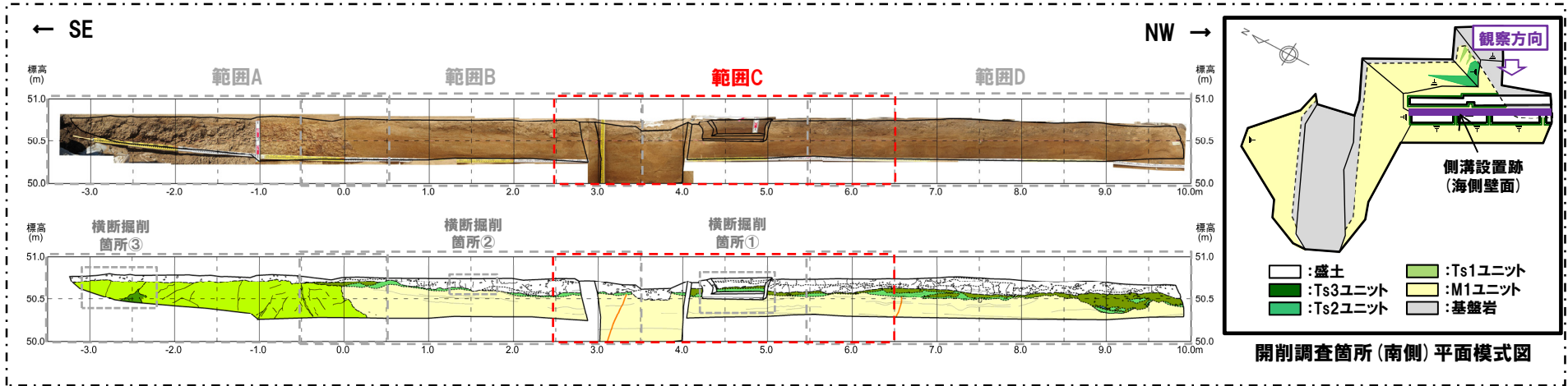
## ②-2 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(4/8)



開削調査箇所(南側) 側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲B)

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-2 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(5/8)

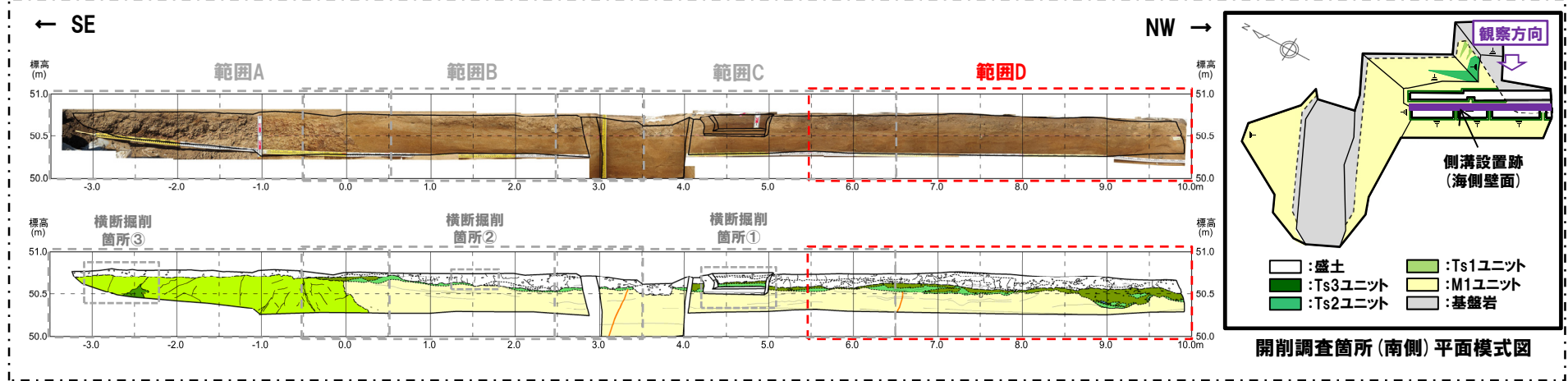


開削調査箇所(南側)側溝設置跡(海側壁面) 写真(範囲C)



# 2.2.1 地層区分の整理

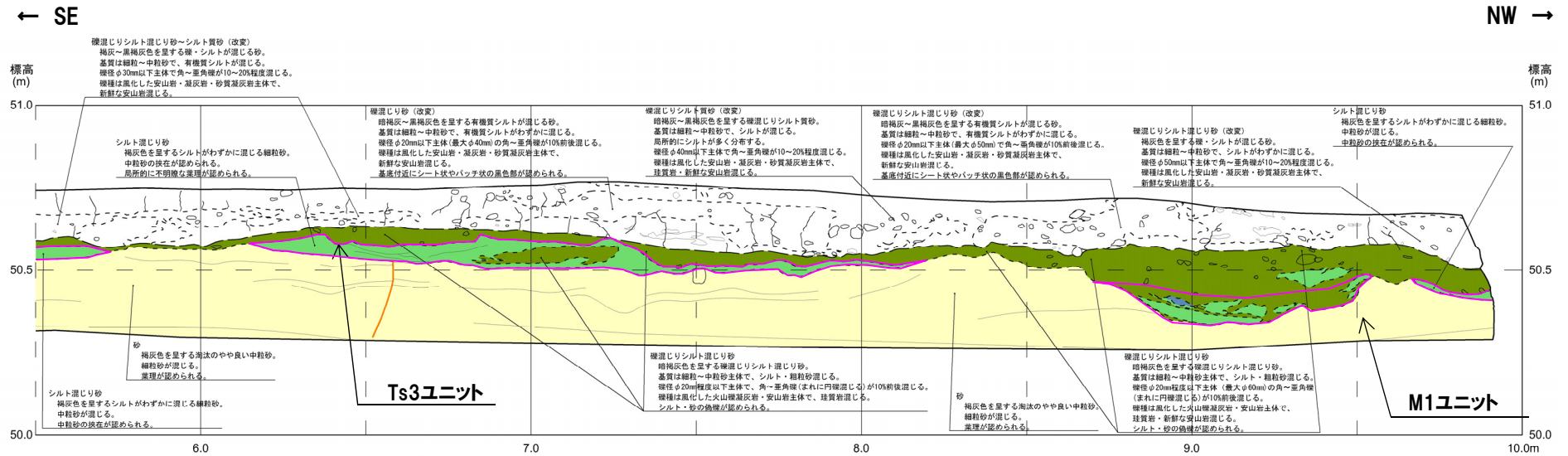
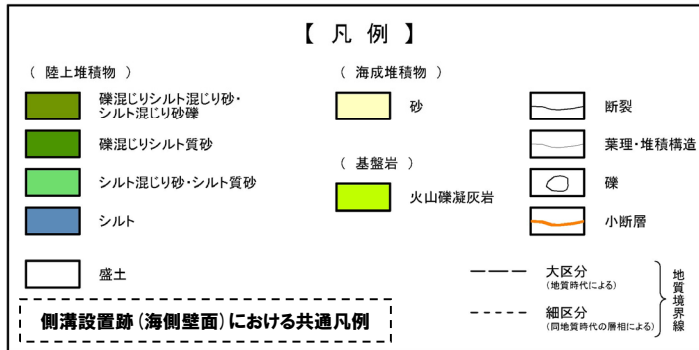
## ②-2 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(7/8)



開削調査箇所(南側)側溝設置跡(海側壁面) 写真(範囲D)

# 2.2.1 地層区分の整理

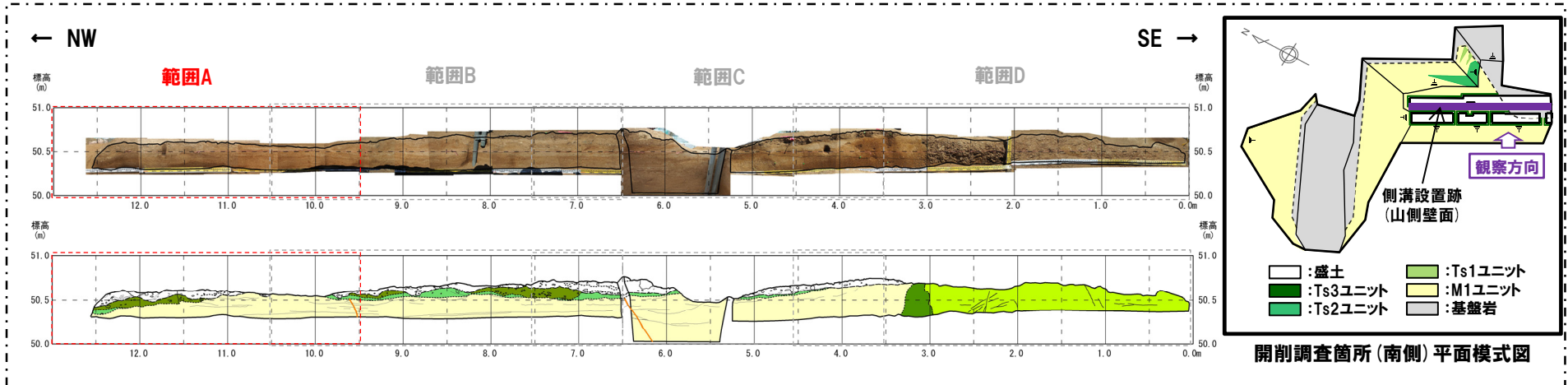
## ②-2 側溝設置跡(海側壁面) 写真及びスケッチ(8/8)



開削調査箇所(南側) 側溝設置跡(海側壁面) スケッチ(範囲D)

# 2.2.1 地層区分の整理

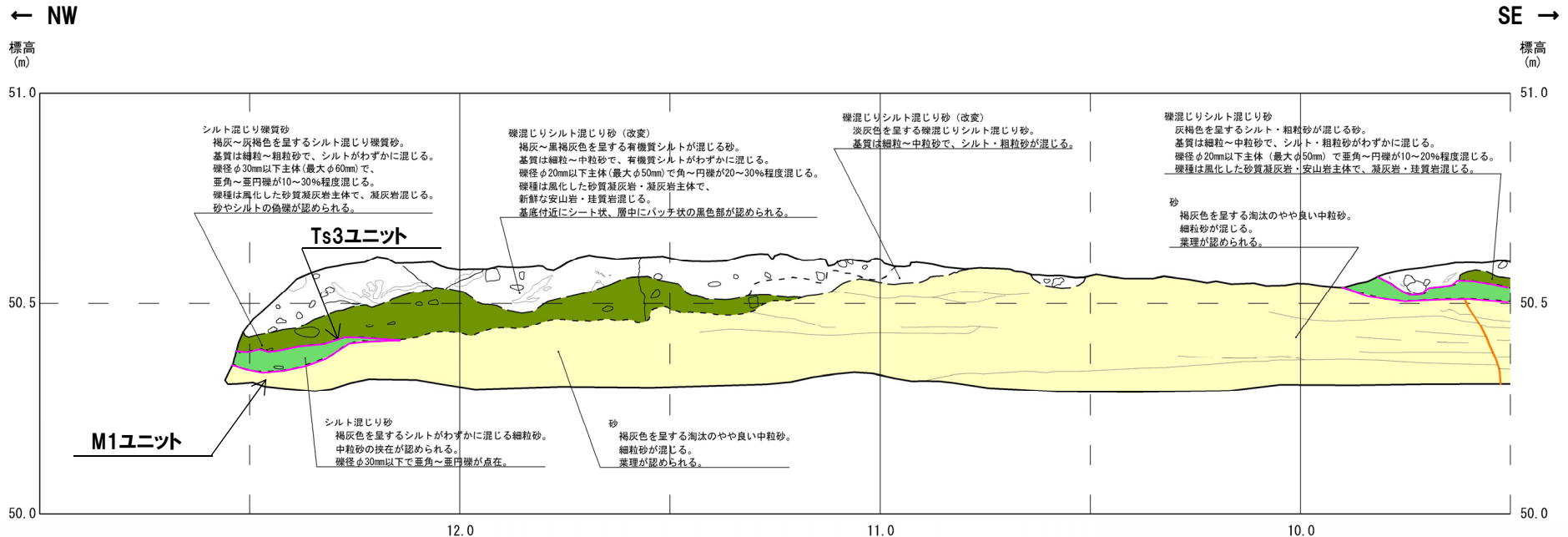
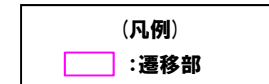
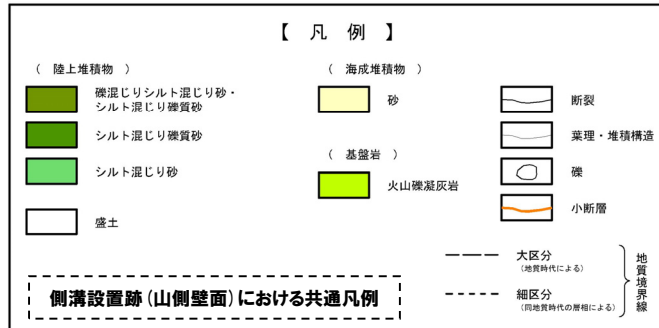
## ②-3 側溝設置跡(山側壁面) 写真及びスケッチ(1/8)



開削調査箇所(南側)側溝設置跡(山側壁面) 写真(範囲A)

# 2.2.1 地層区分の整理

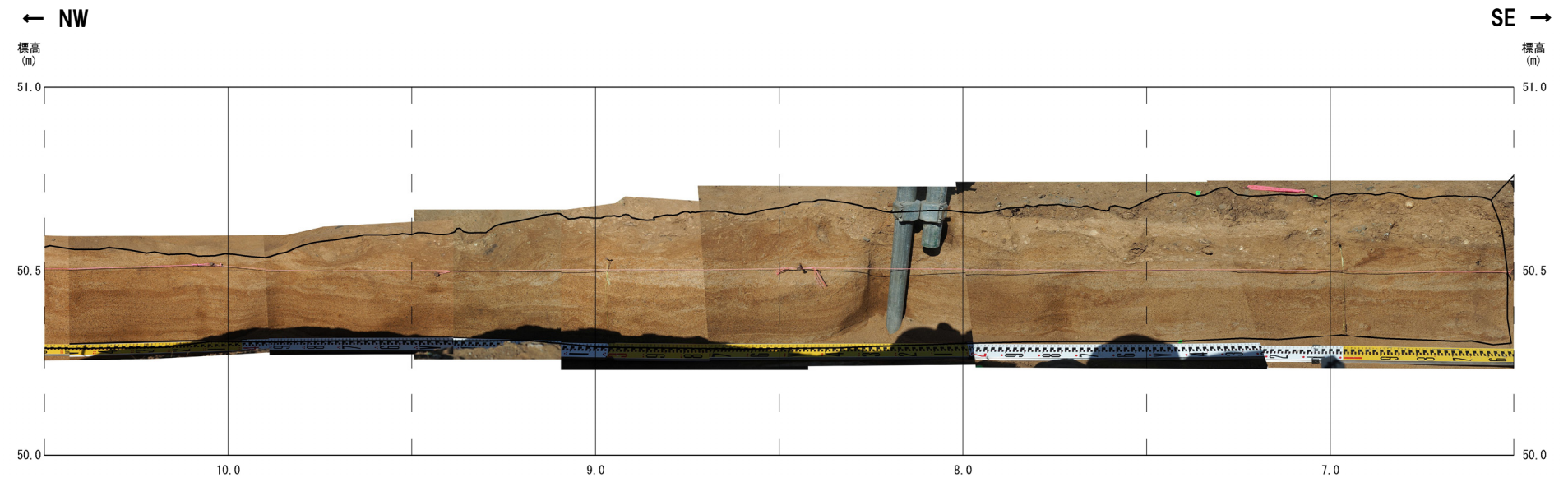
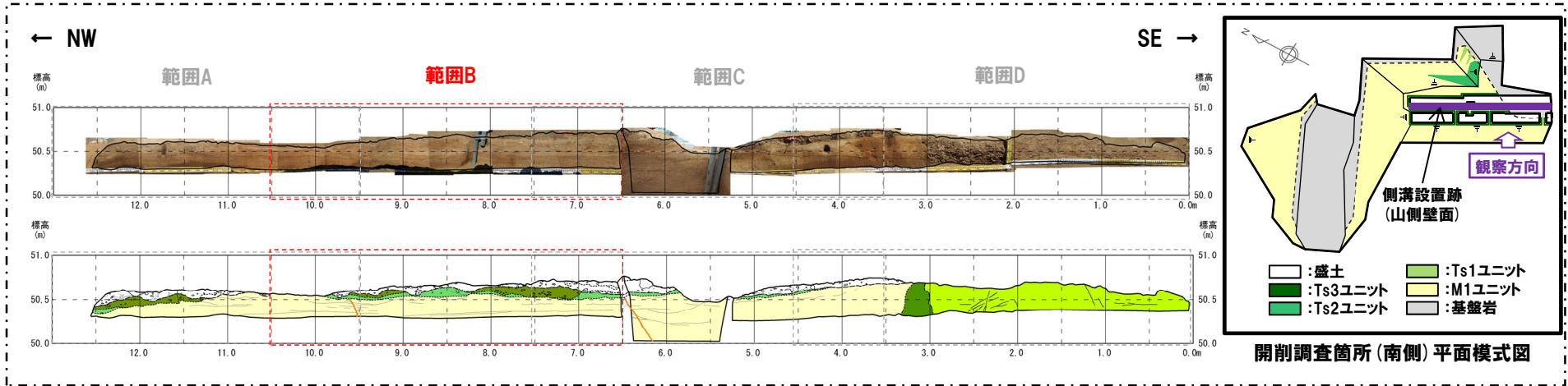
## ②-3 側溝設置跡(山側壁面) 写真及びスケッチ(2/8)



開削調査箇所(南側) 側溝設置跡(山側壁面) スケッチ(範囲A)

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-3 側溝設置跡(山側壁面) 写真及びスケッチ(3/8)

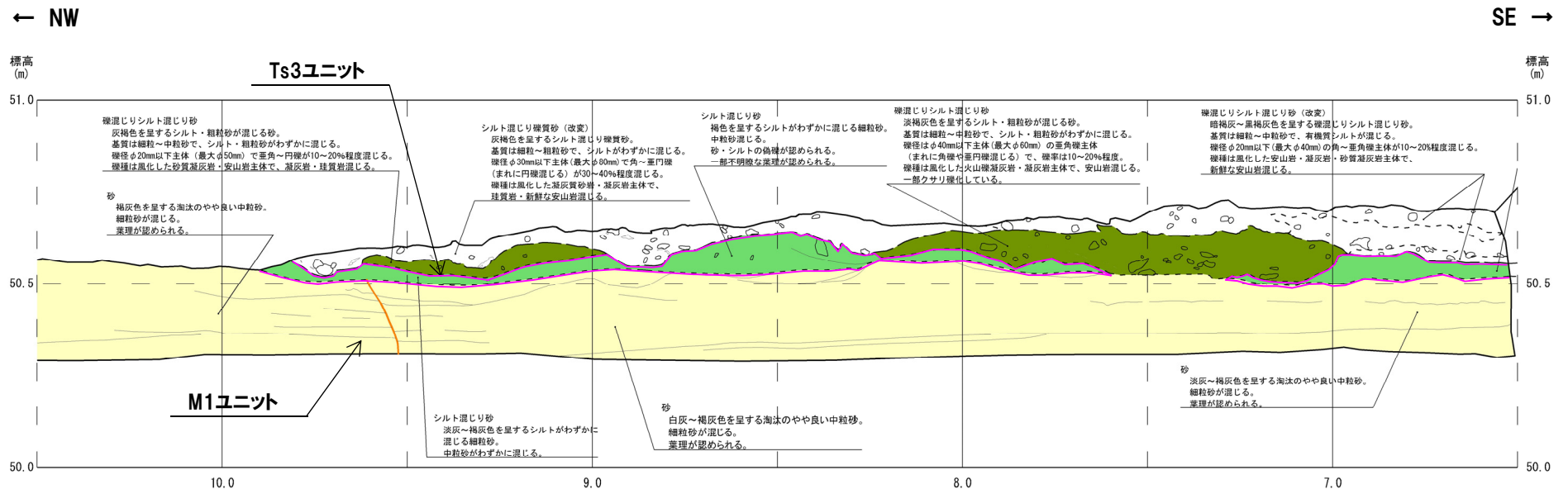
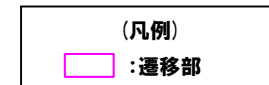
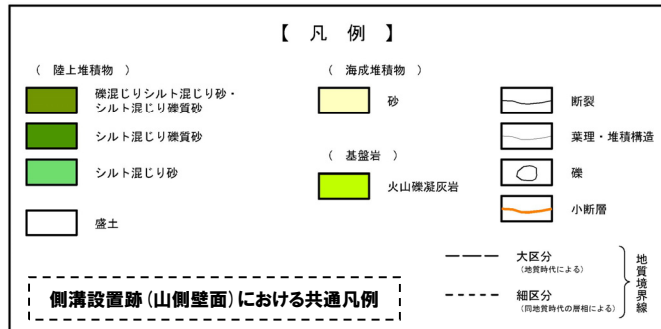


開削調査箇所(南側)側溝設置跡(山側壁面) 写真(範囲B)



# 2.2.1 地層区分の整理

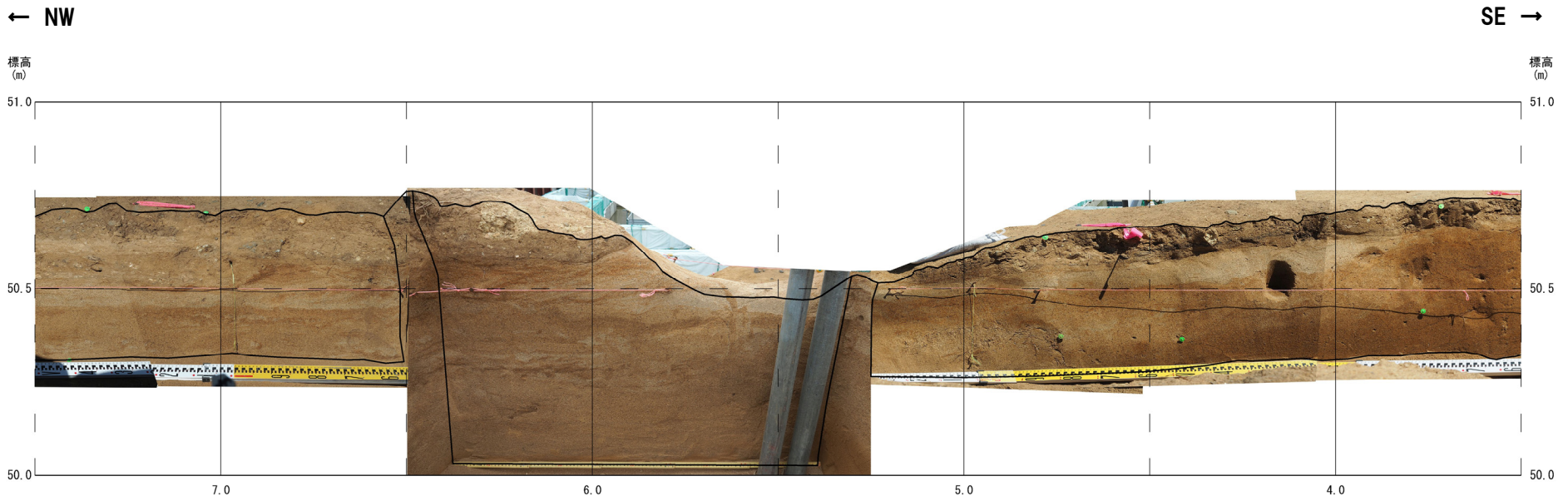
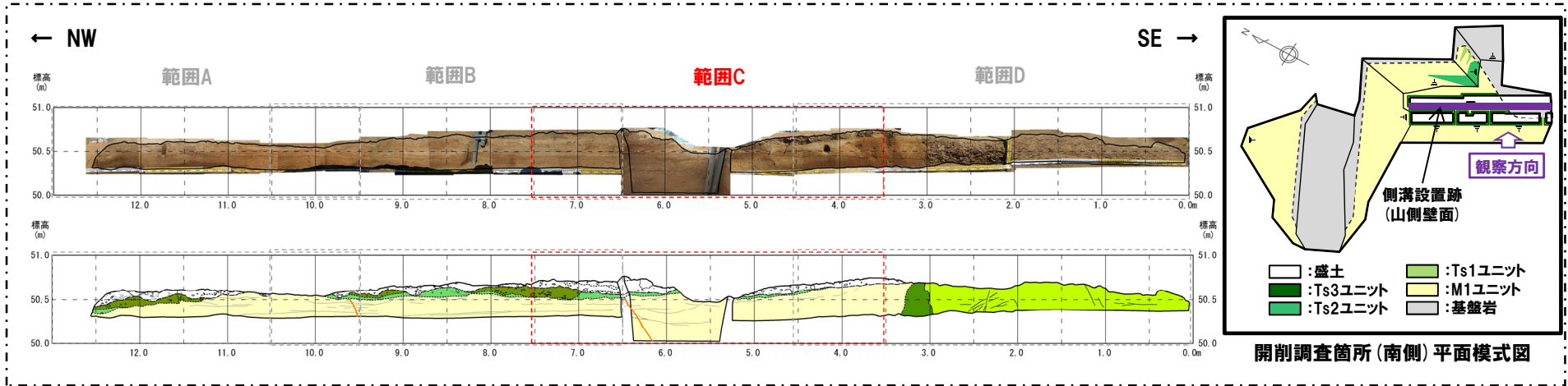
## ②-3 側溝設置跡(山側壁面) 写真及びスケッチ(4/8)



開削調査箇所(南側) 側溝設置跡(山側壁面) スケッチ(範囲B)

# 2.2.1 地層区分の整理

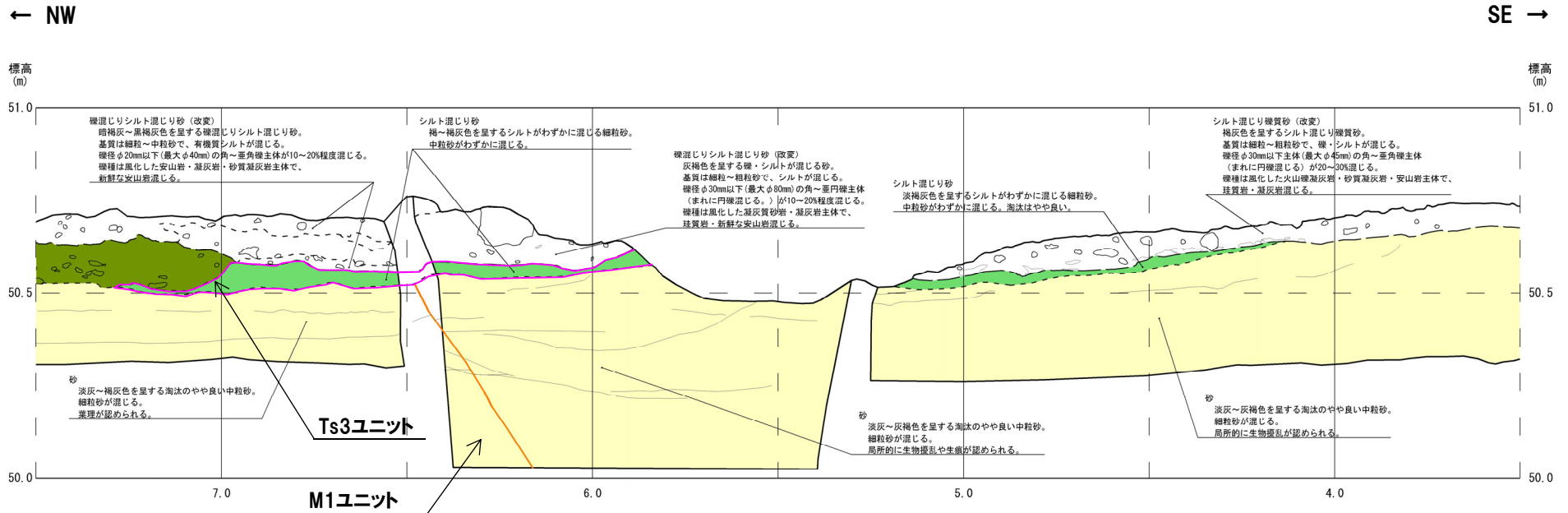
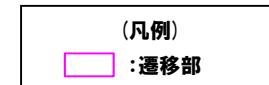
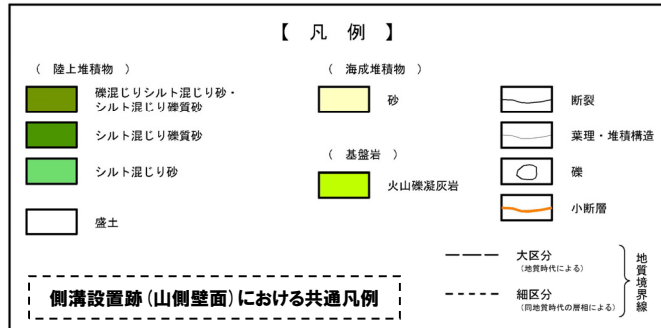
## ②-3 側溝設置跡(山側壁面) 写真及びスケッチ(5/8)



開削調査箇所(南側)側溝設置跡(山側壁面) 写真(範囲C)

# 2.2.1 地層区分の整理

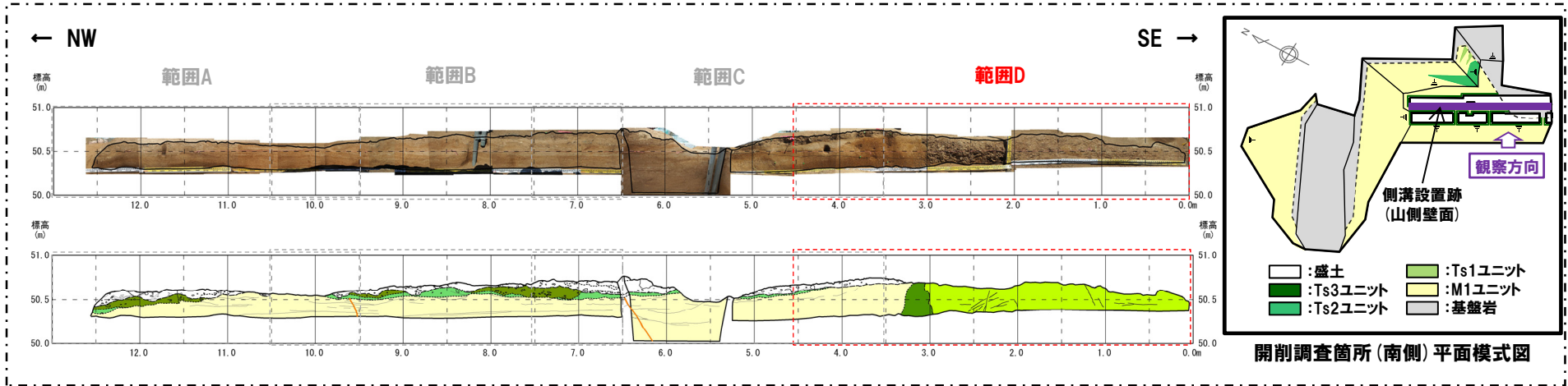
## ②-3 側溝設置跡(山側壁面) 写真及びスケッチ(6/8)



開削調査箇所(南側) 側溝設置跡(山側壁面) スケッチ(範囲C)

# 2.2.1 地層区分の整理

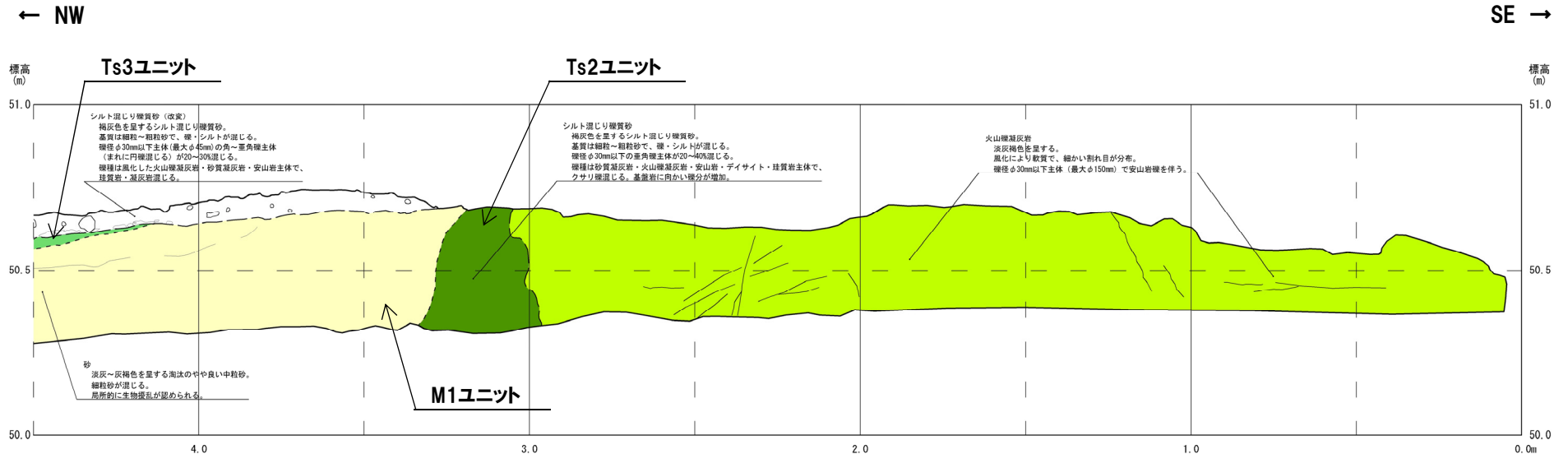
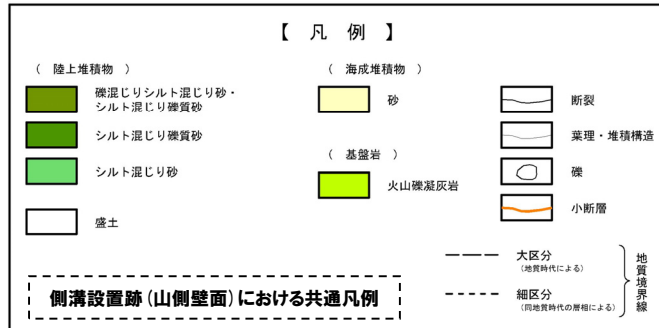
## ②-3 側溝設置跡(山側壁面) 写真及びスケッチ(7/8)



開削調査箇所(南側)側溝設置跡(山側壁面) 写真(範囲D)

# 2.2.1 地層区分の整理

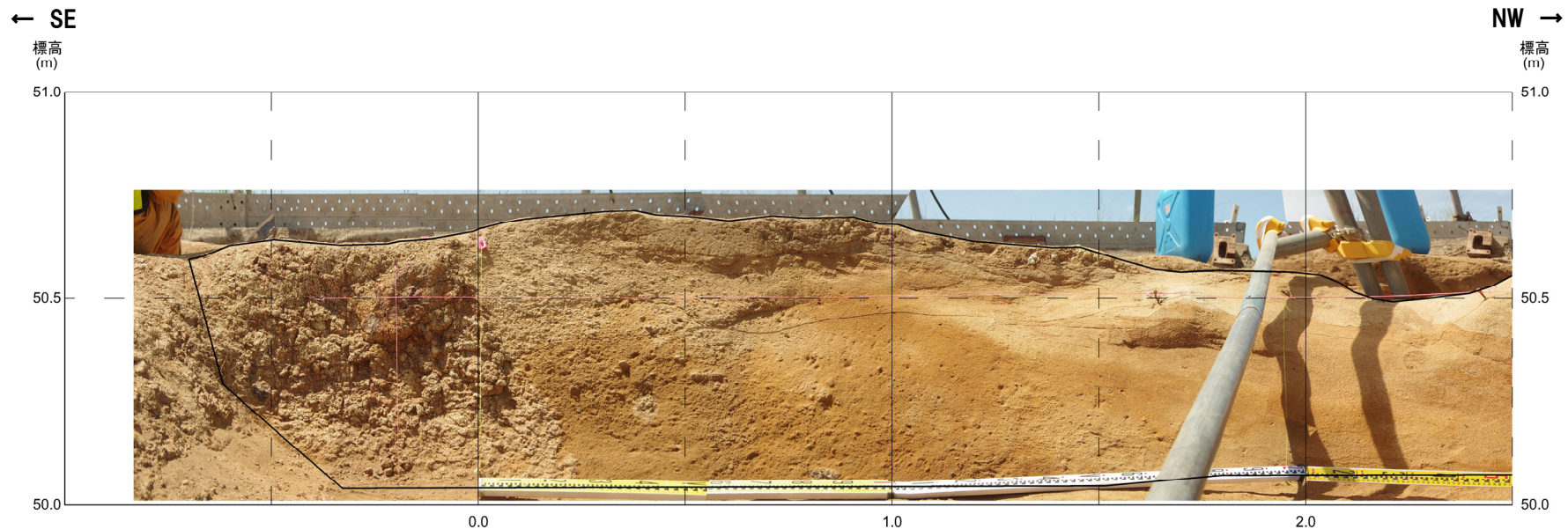
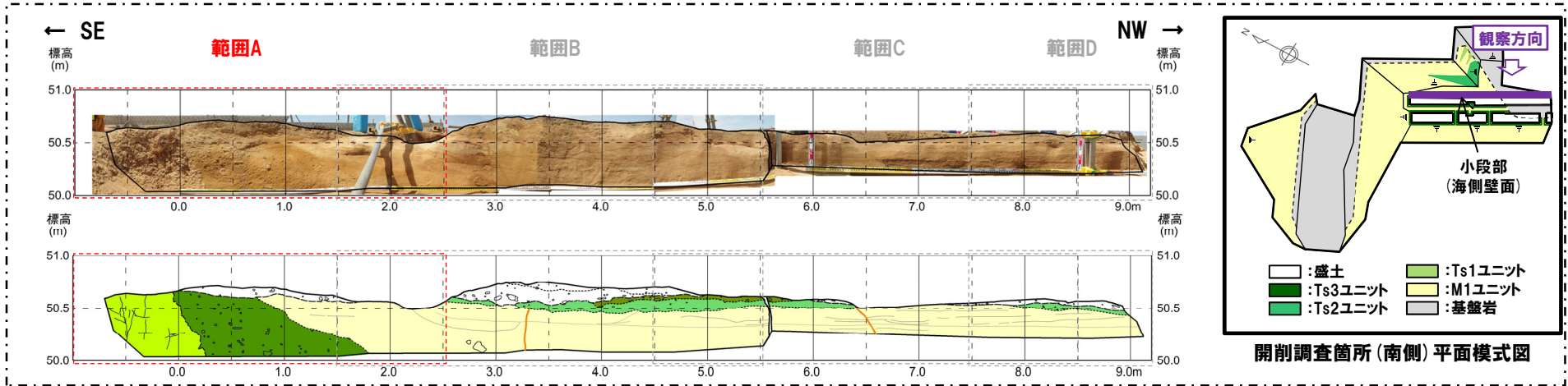
## ②-3 側溝設置跡(山側壁面) 写真及びスケッチ(8/8)



開削調査箇所(南側)側溝設置跡(山側壁面) スケッチ(範囲D)

# 2.2.1 地層区分の整理

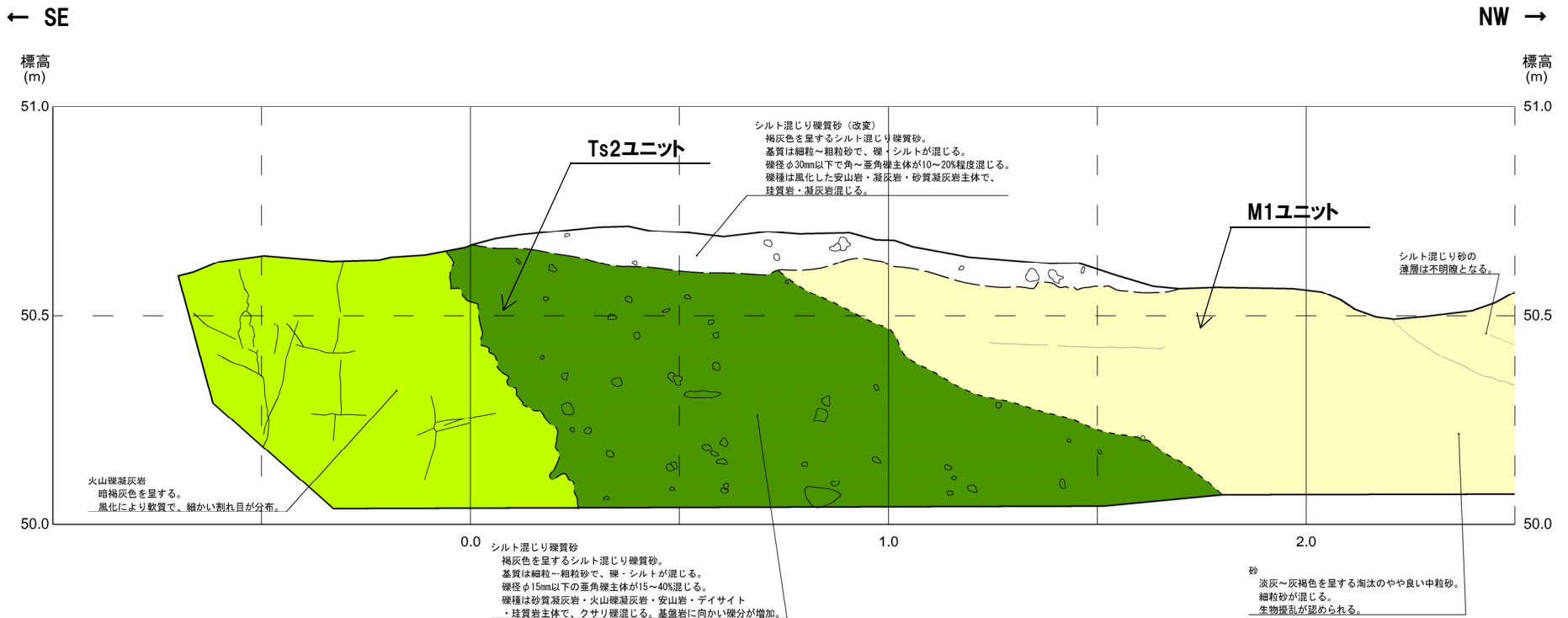
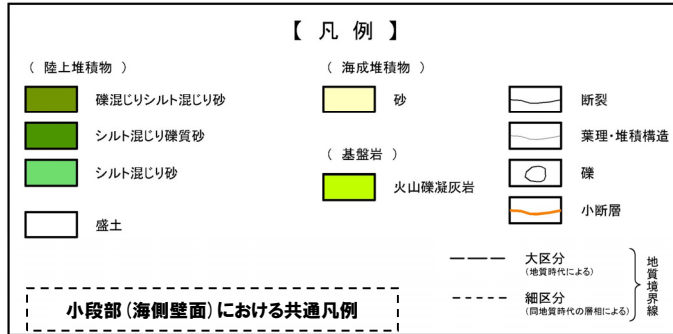
## ②-4 小段部(海側壁面) 写真及びスケッチ(1/8)



開削調査箇所(南側)小段部(海側壁面) 写真(範囲A)

# 2.2.1 地層区分の整理

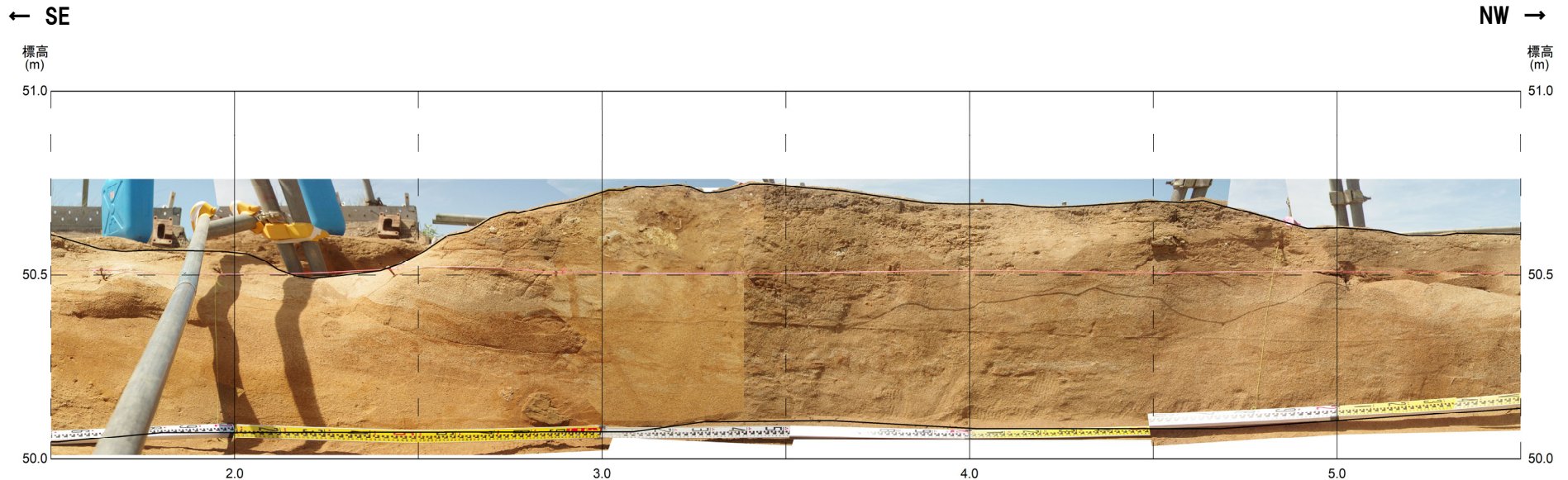
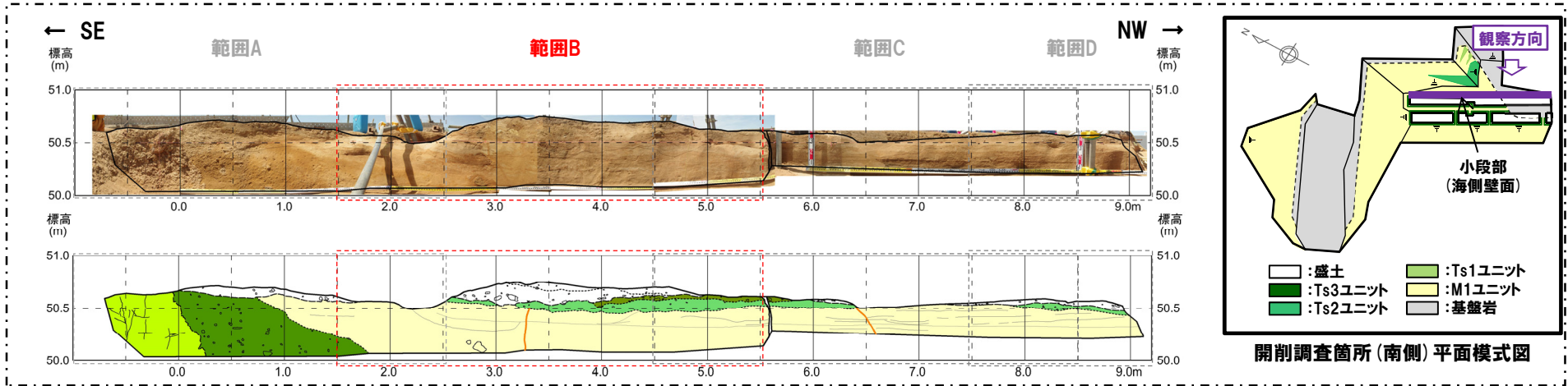
## ②-4 小段部(海側壁面) 写真及びスケッチ(2/8)



開削調査箇所(南側) 小段部(海側壁面) スケッチ(範囲A)

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-4 小段部(海側壁面) 写真及びスケッチ(3/8)

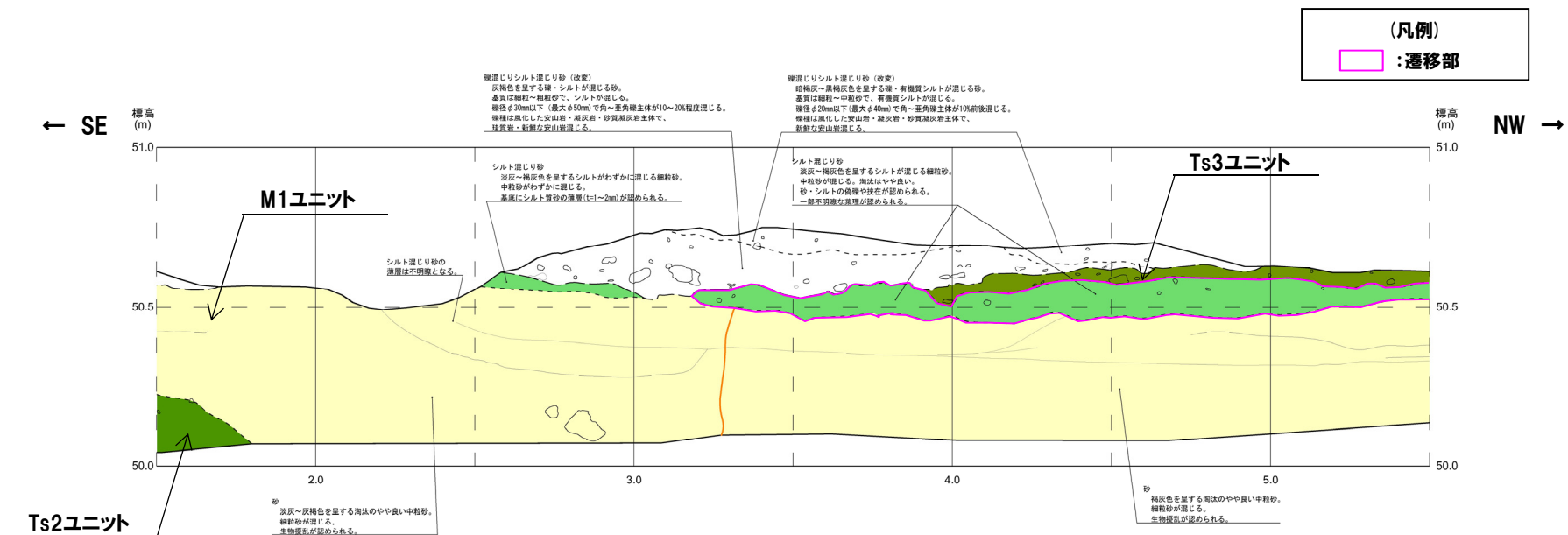
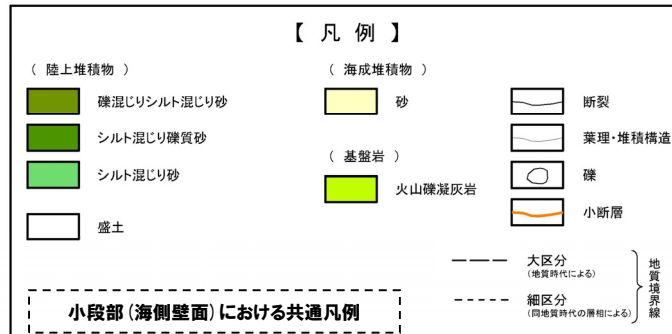


開削調査箇所(南側)小段部(海側壁面) 写真(範囲B)



# 2.2.1 地層区分の整理

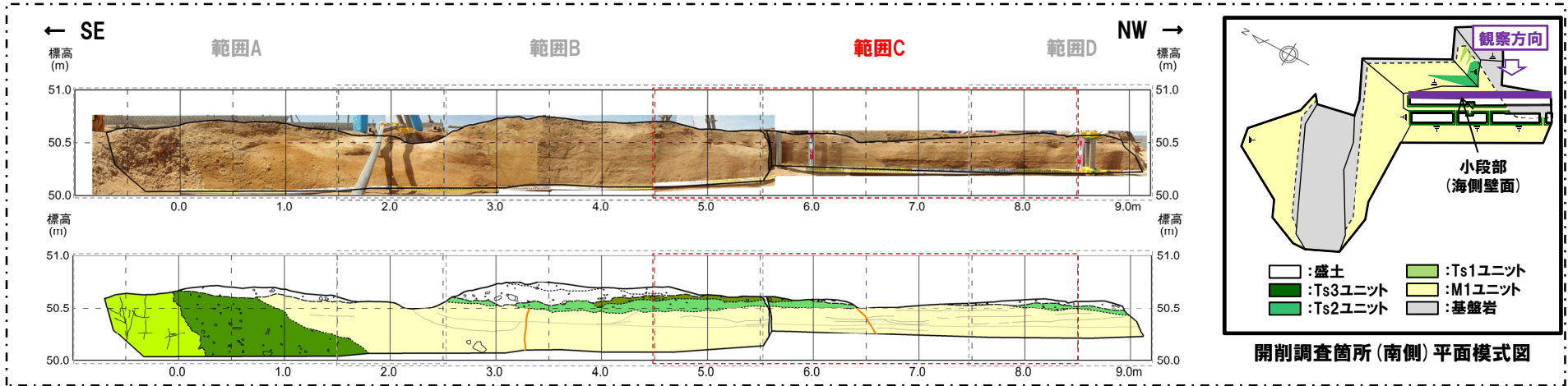
## ②-4 小段部(海側壁面) 写真及びスケッチ(4/8)



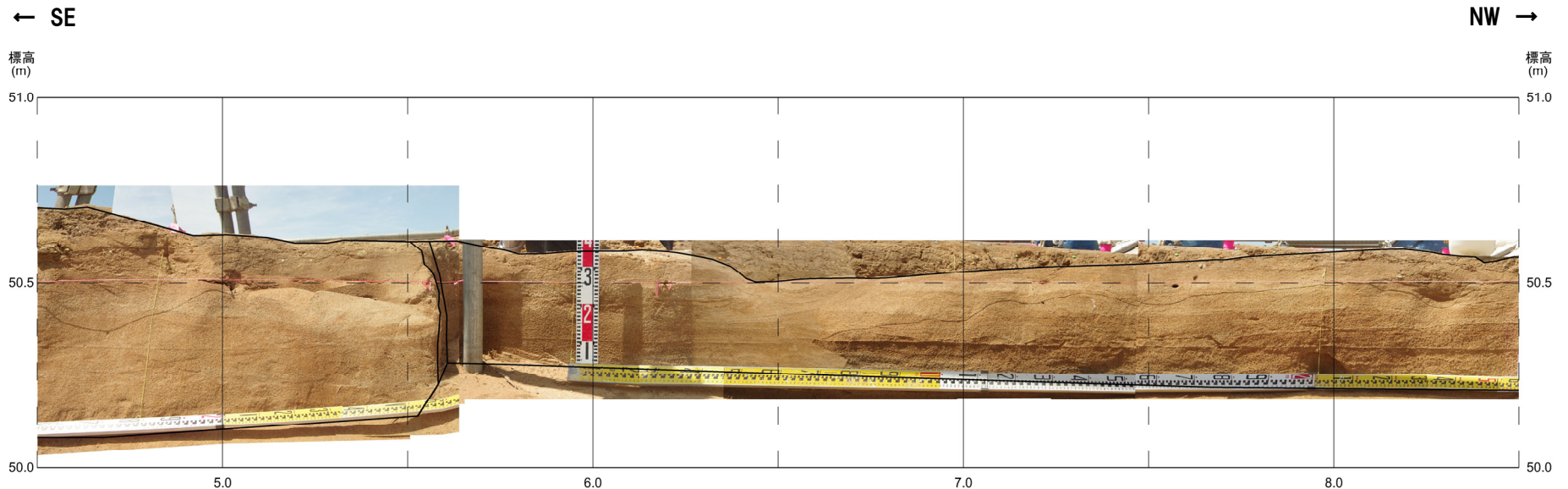
開削調査箇所(南側)小段部(海側壁面) スケッチ(範囲B)

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-4 小段部(海側壁面) 写真及びスケッチ(5/8)



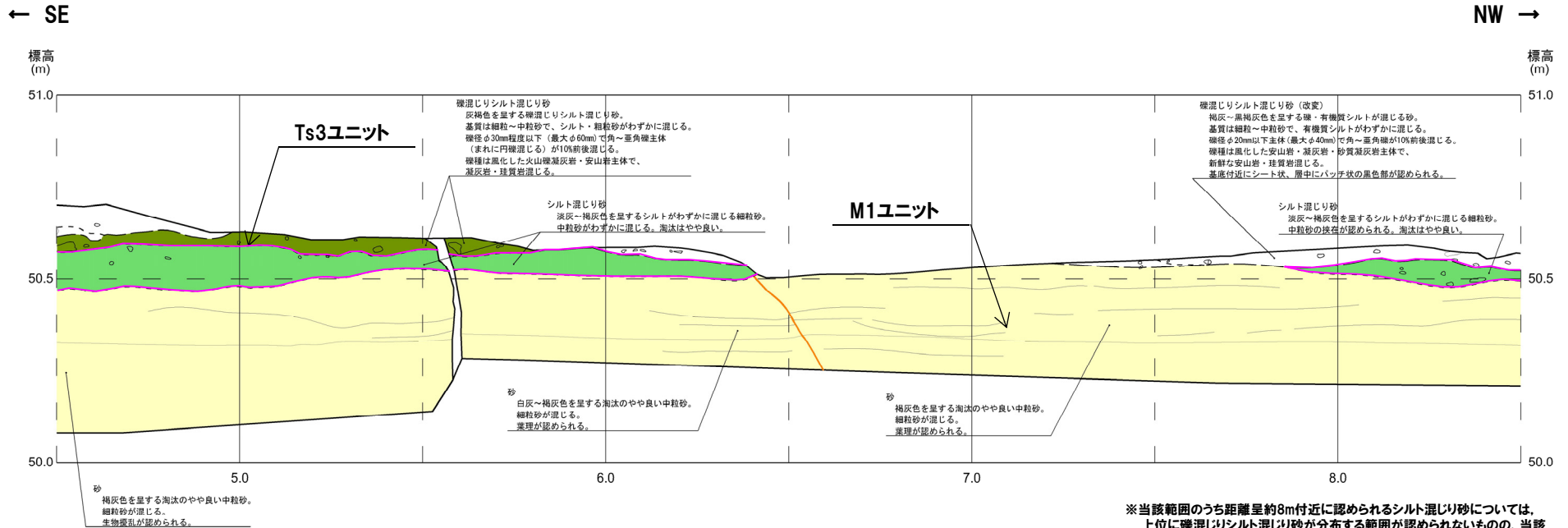
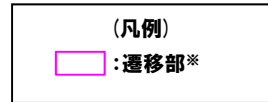
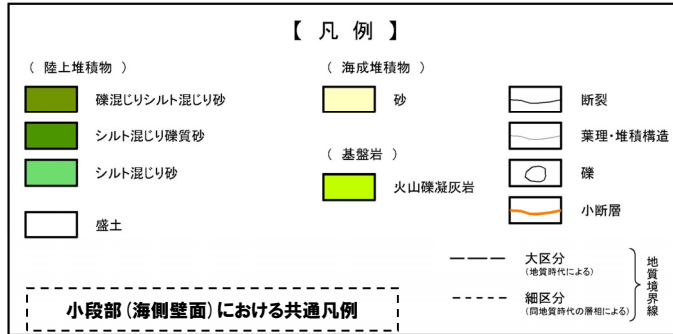
位置図



開削調査箇所(南側)小段部(海側壁面) 写真(範囲C)

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-4 小段部(海側壁面) 写真及びスケッチ(6/8)

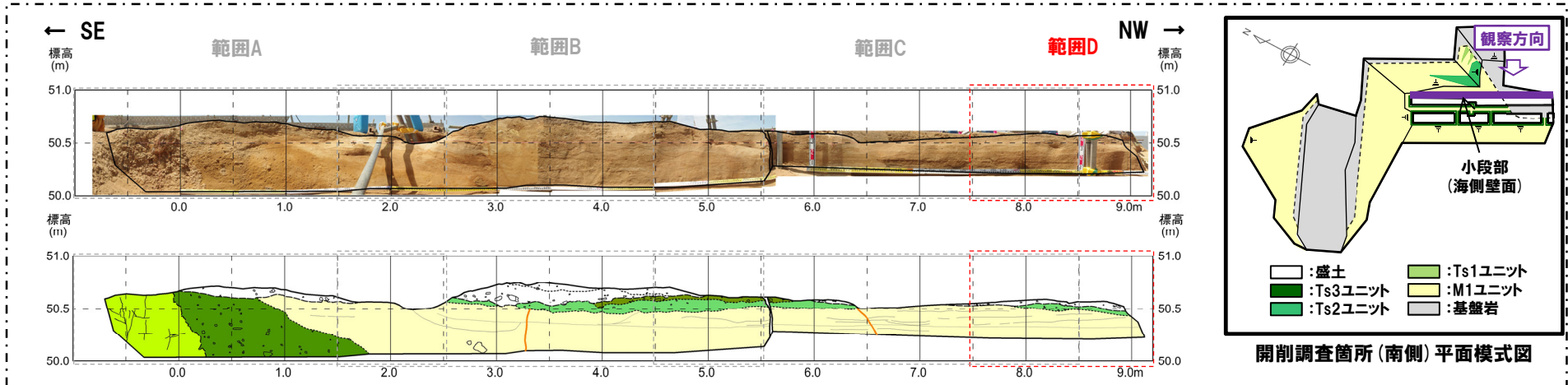


\*当該範囲のうち距離呈約8m付近に認められるシルト混じり砂については、上位に礫混じりシルト混じり砂が分布する範囲が認められないものの、当該範囲の南西側に位置する側溝設置跡(山側壁面)に認められる遷移部の分布範囲(P107参照)との連続性を踏まえ、遷移部として評価している。

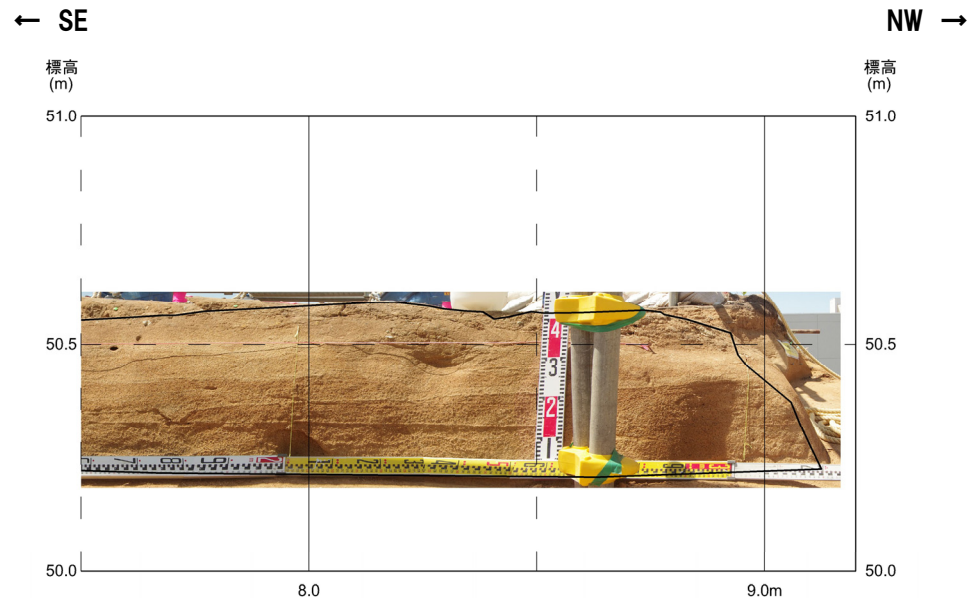
開削調査箇所(南側)小段部(海側壁面) スケッチ(範囲C)

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-4 小段部(海側壁面) 写真及びスケッチ(7/8)



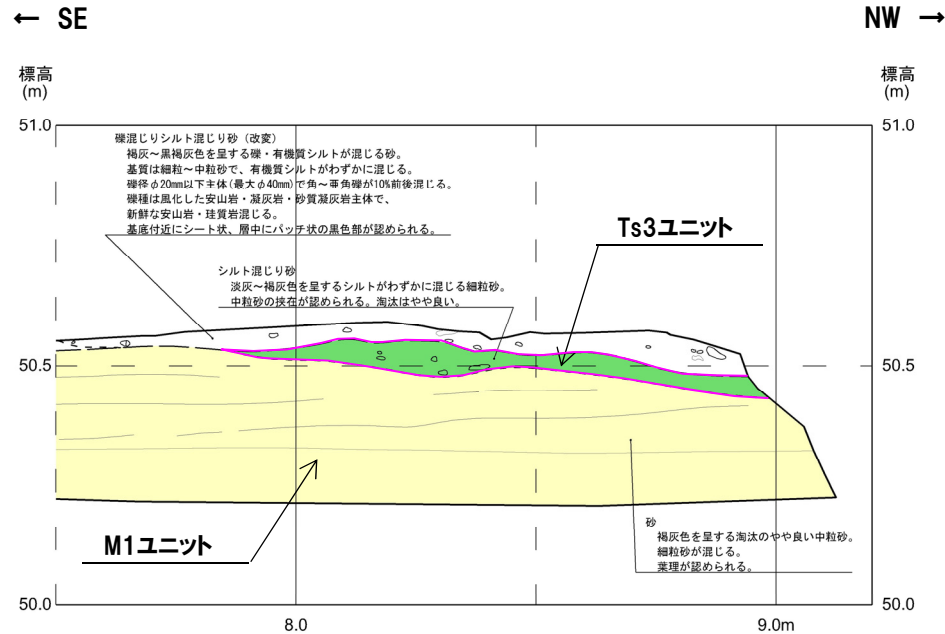
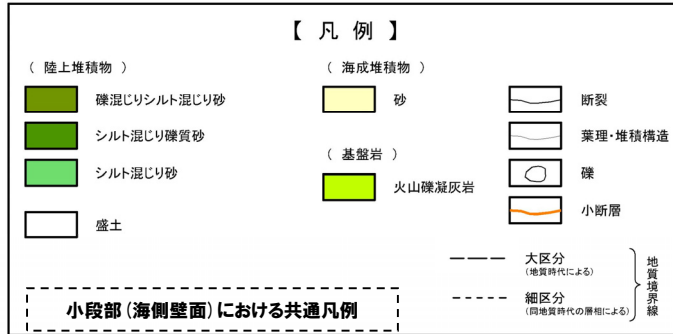
位置図



開削調査箇所(南側)小段部(海側壁面) 写真(範囲D)

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-4 小段部(海側壁面) 写真及びスケッチ(8/8)

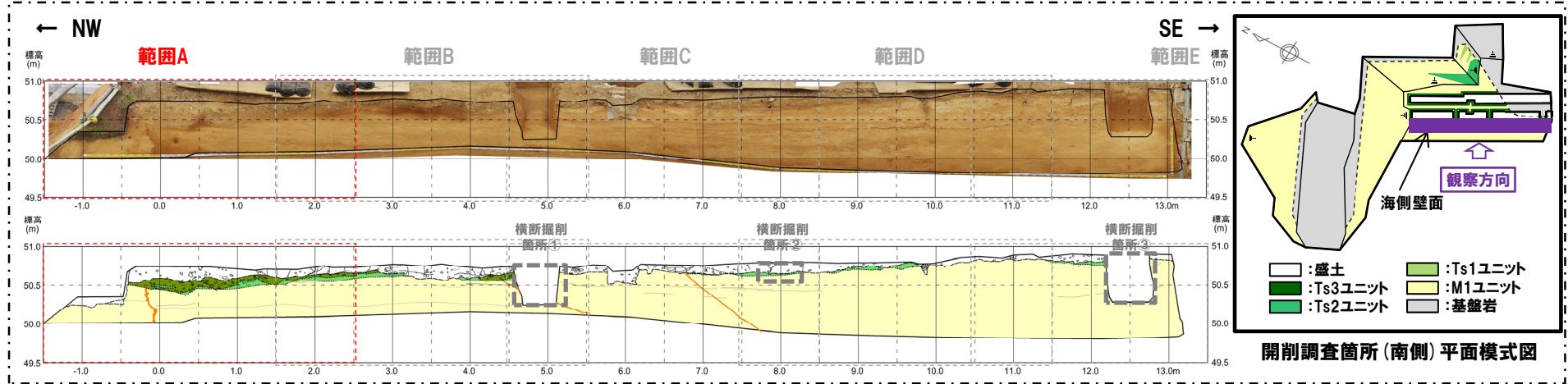


開削調査箇所(南側)小段部(海側壁面) スケッチ(範囲D)

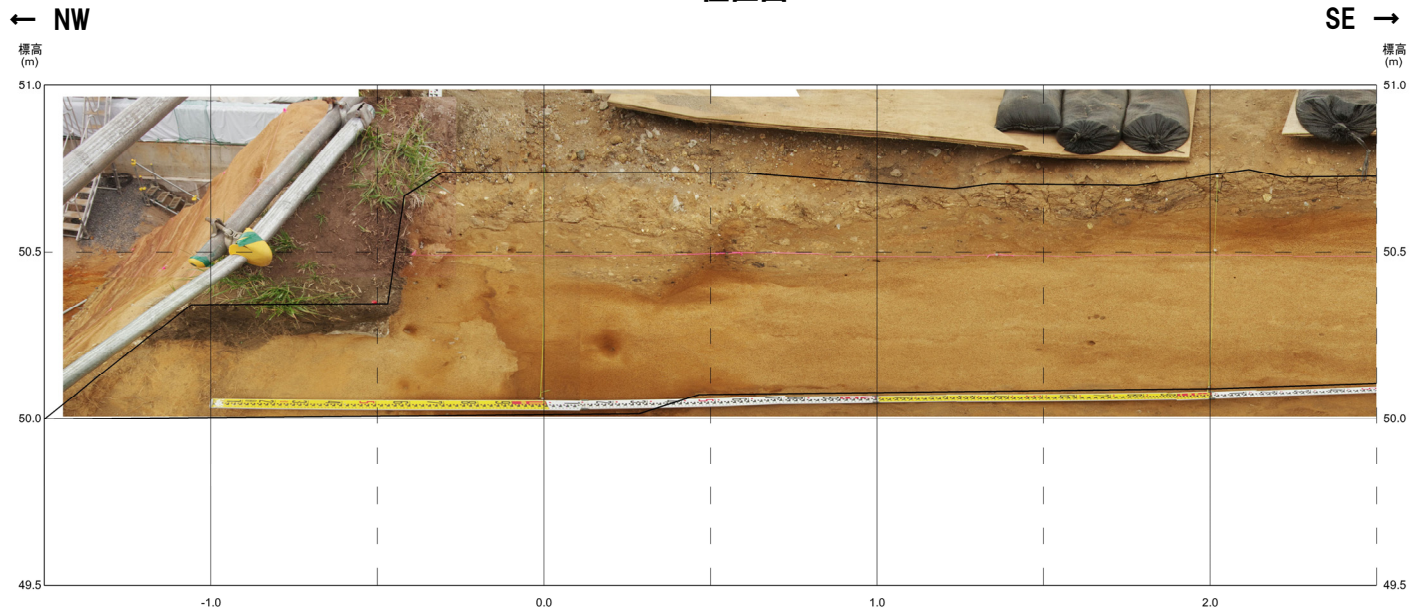
※当該範囲は、シルト混じり砂の上位に礫混じりシルト混じり砂が分布する範囲が認められないものの、当該範囲の南西側に位置する側溝設置跡(山側壁面)に認められる遷移部の分布範囲(P107参照)との連続性を踏まえ、遷移部として評価している。

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (1/10)



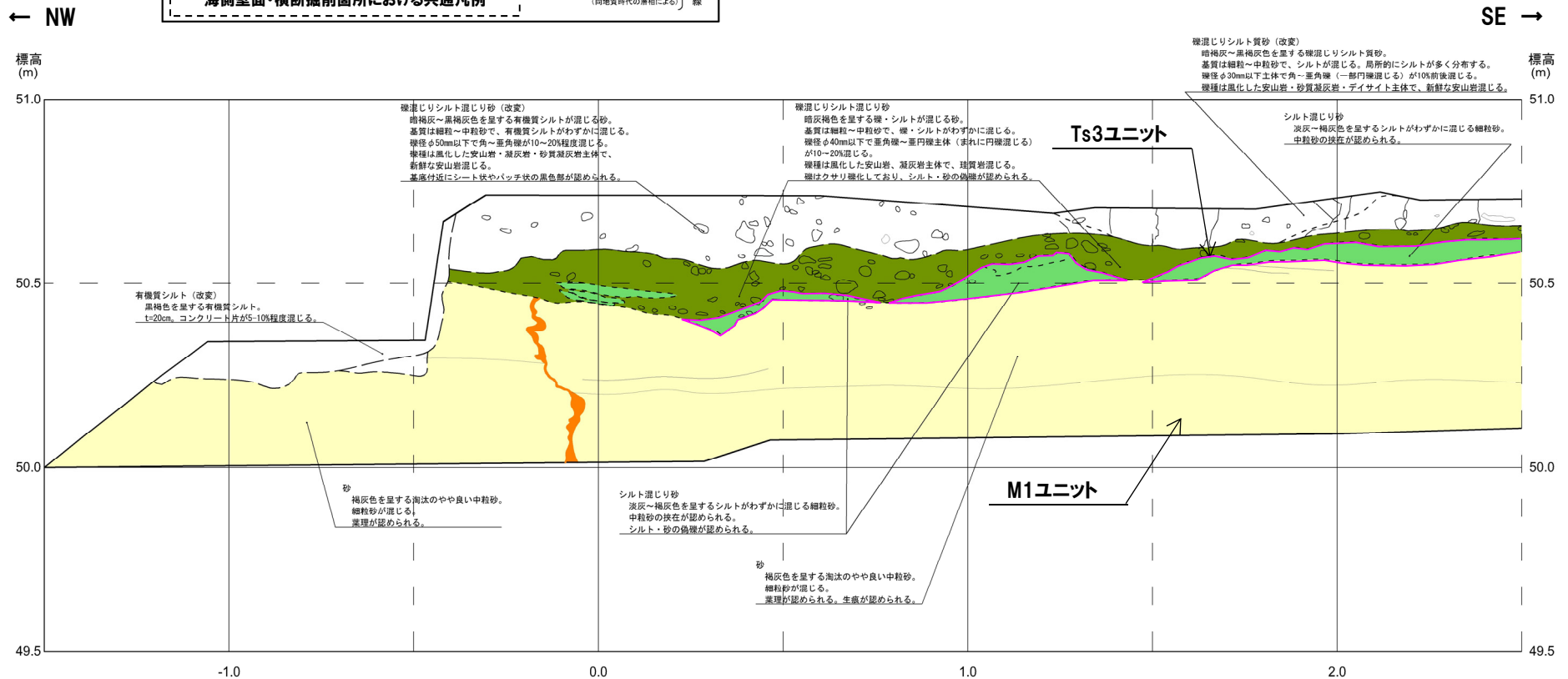
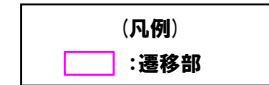
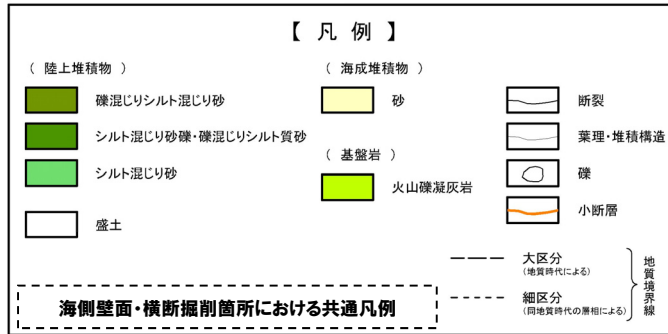
位置図



開削調査箇所(南側)海側壁面 写真(範囲A)

# 2.2.1 地層区分の整理

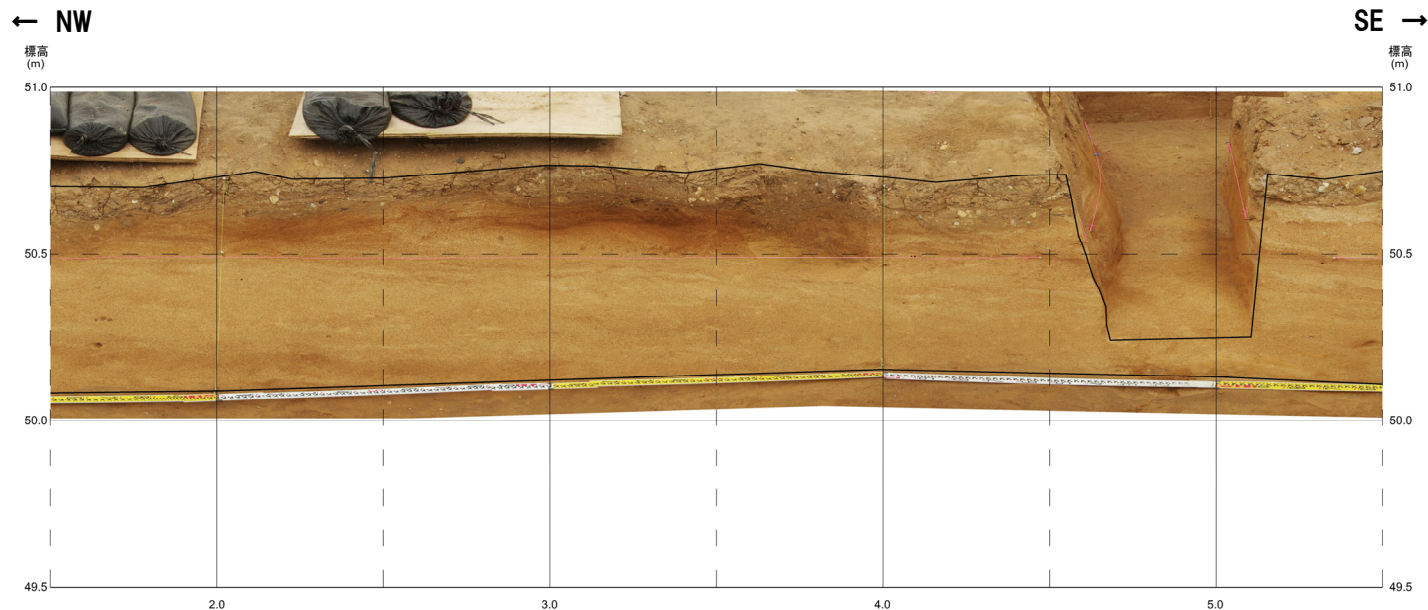
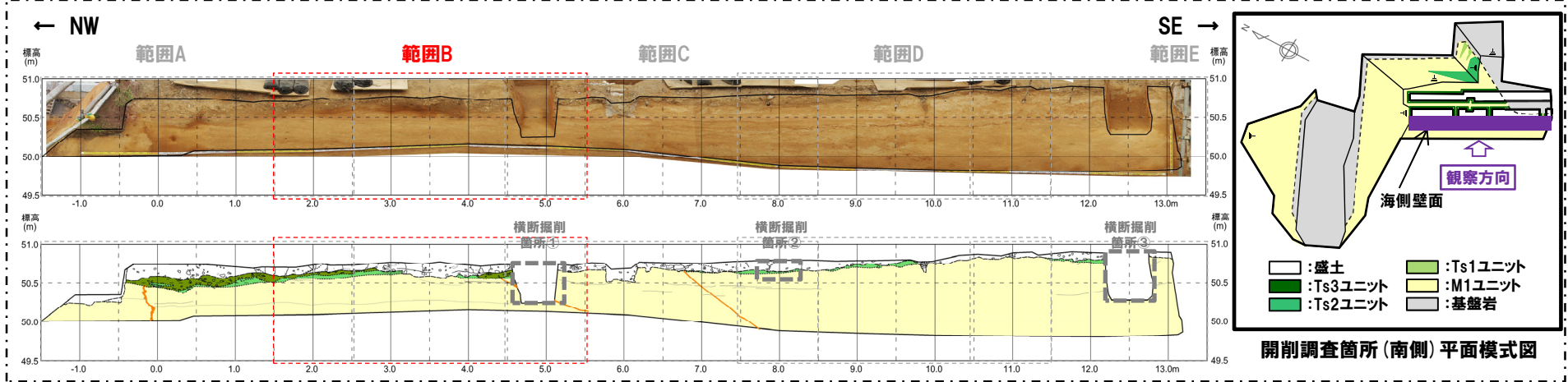
## ②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (2/10)



開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲A)

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (3/10)

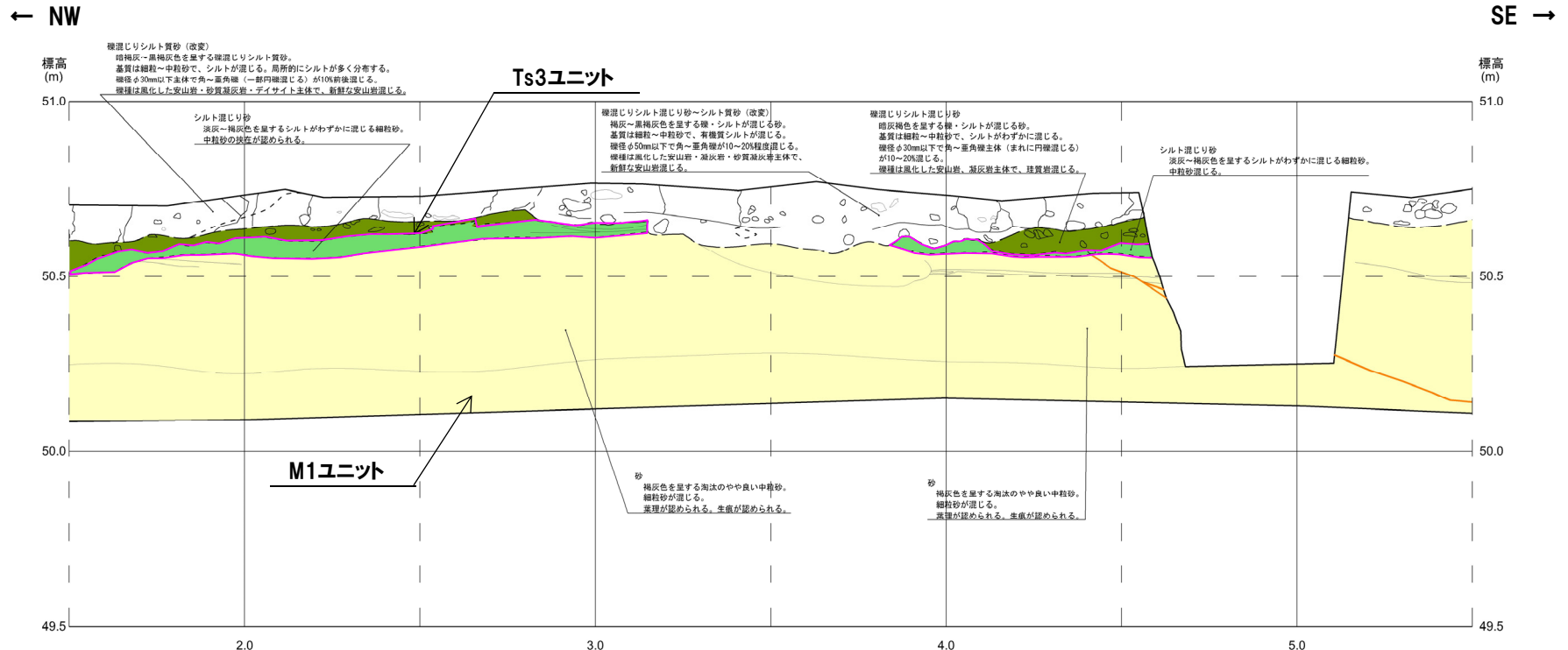
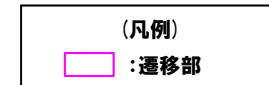
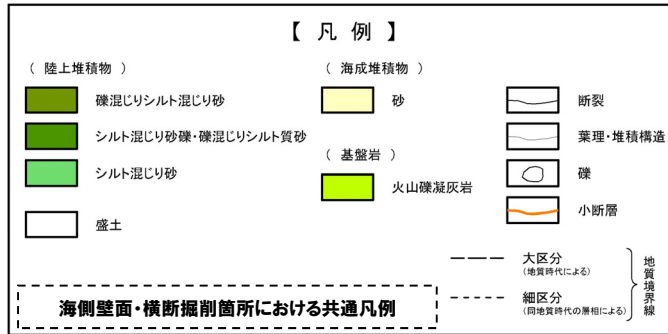


開削調査箇所(南側)海側壁面 写真(範囲B)



# 2.2.1 地層区分の整理

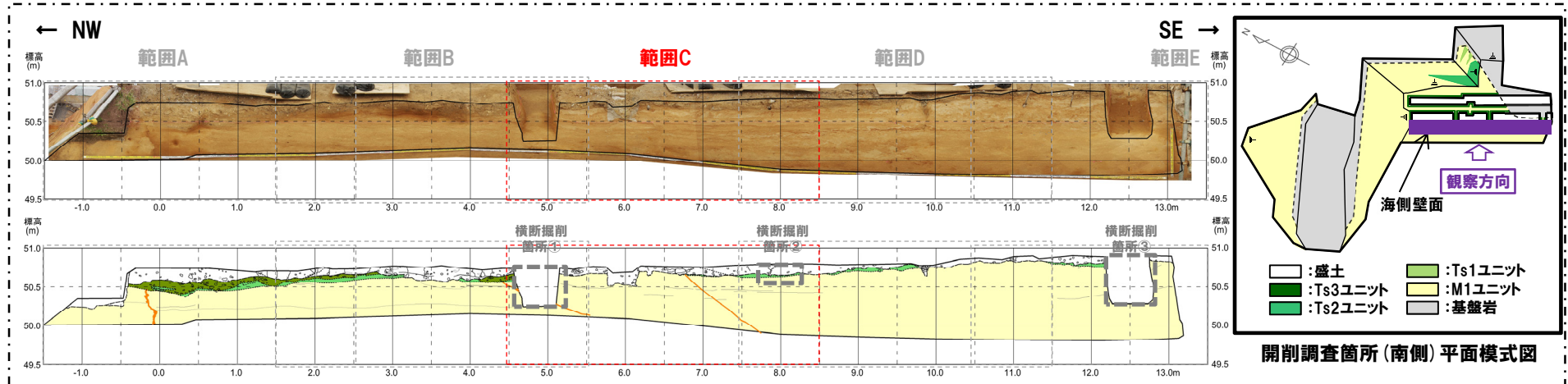
## ②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (4/10)



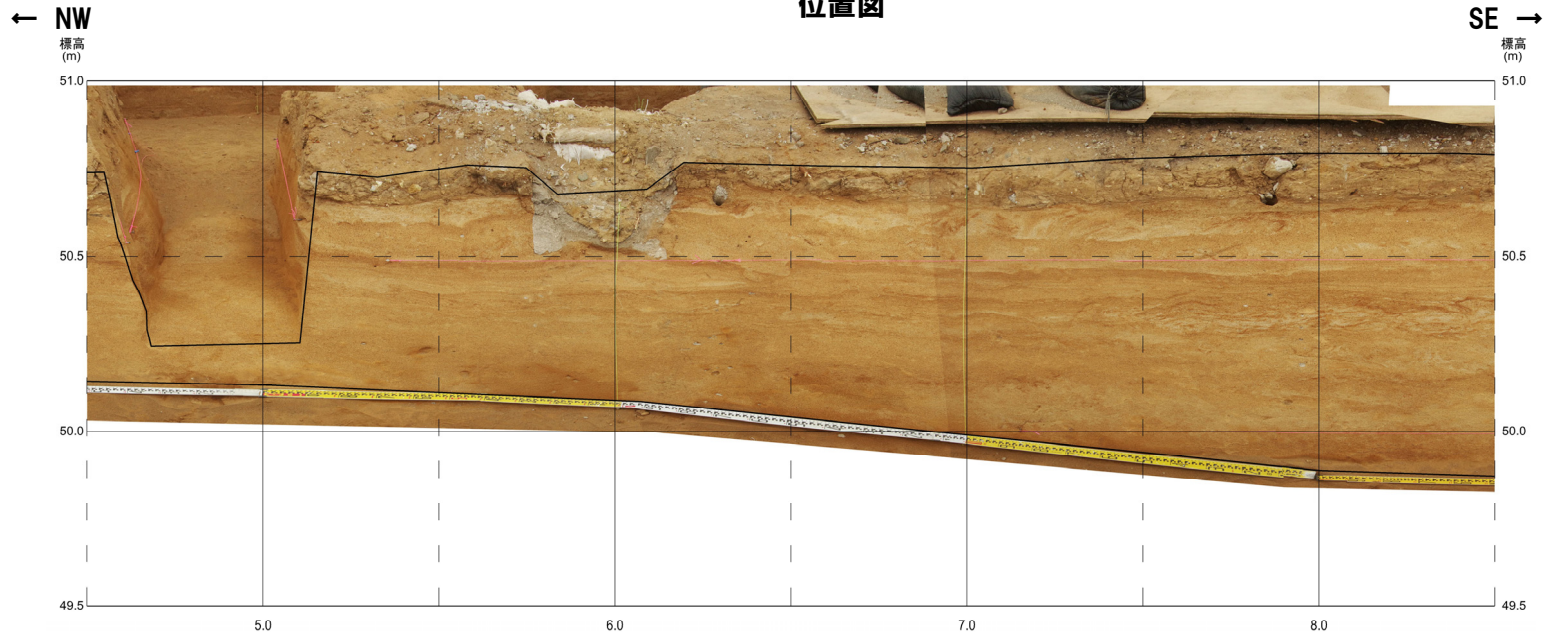
開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲B)

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (5/10)



位置図

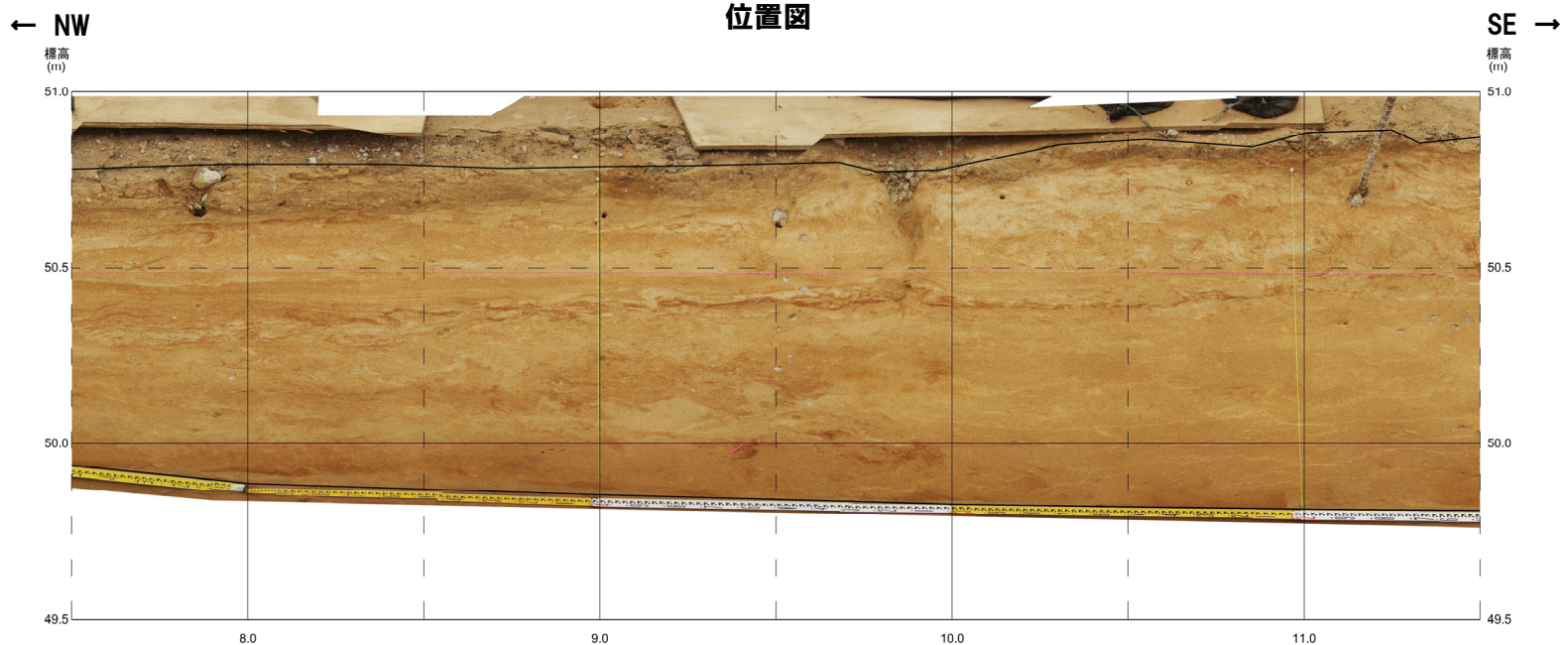
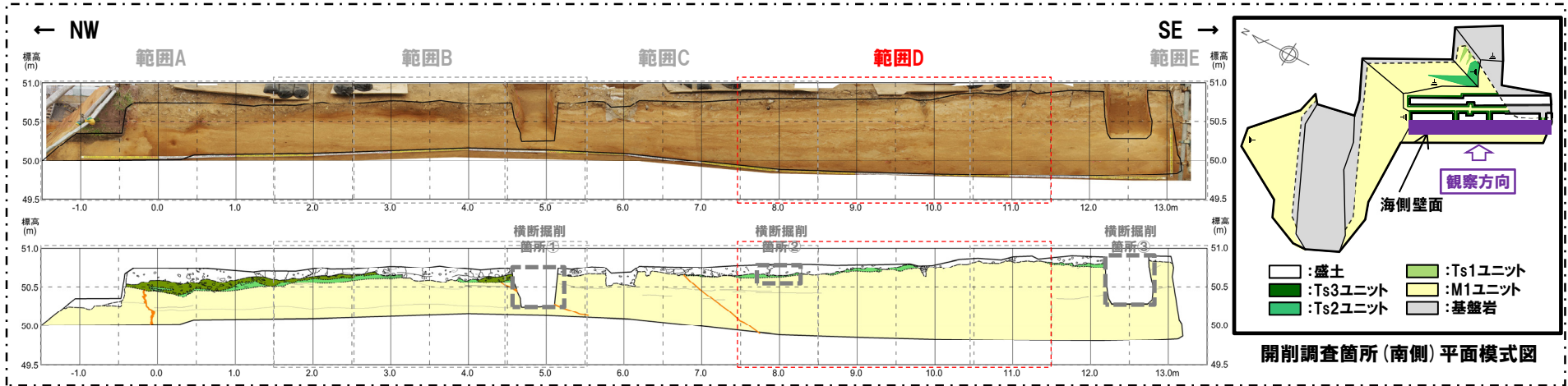


開削調査箇所(南側)海側壁面 写真(範囲C)



# 2.2.1 地層区分の整理

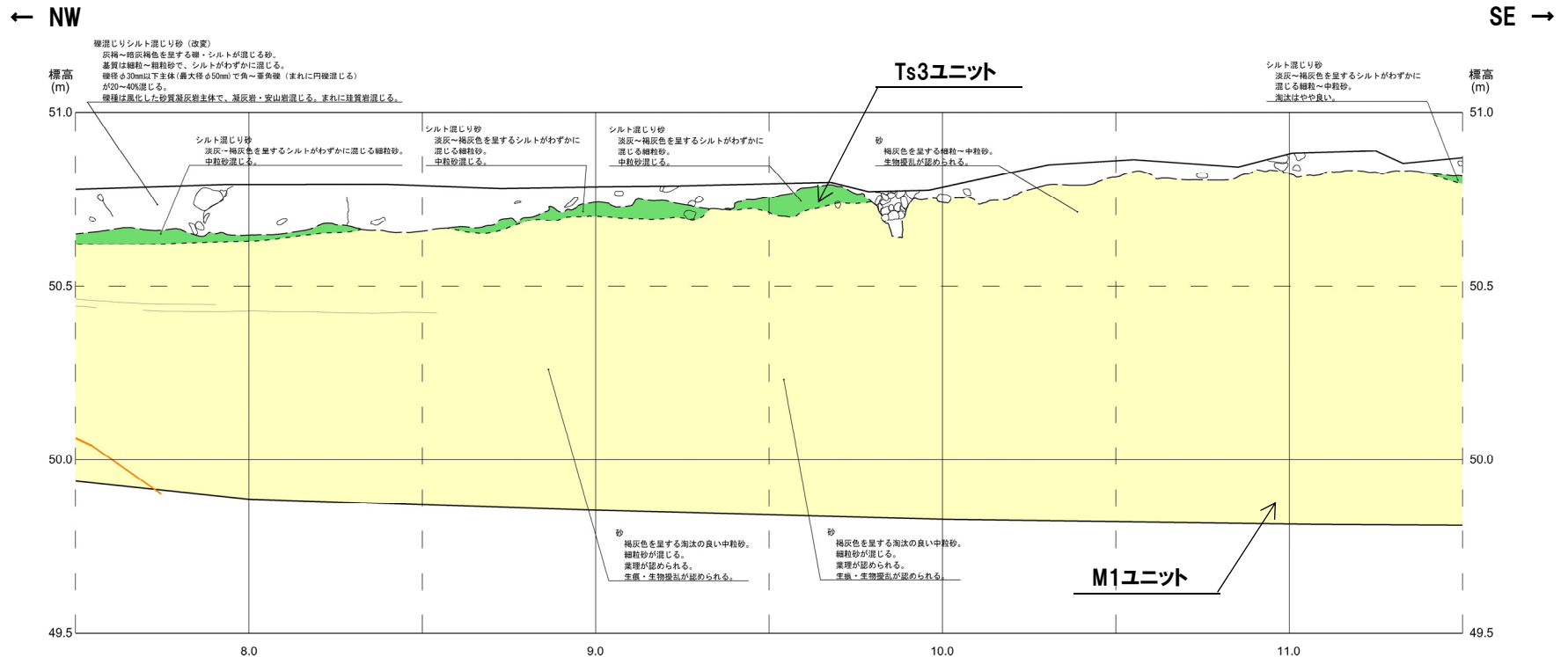
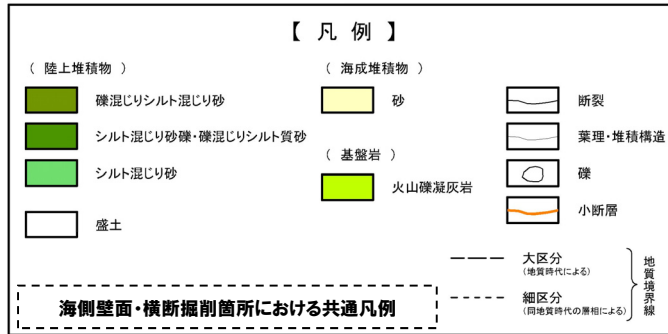
## ②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (7/10)



開削調査箇所(南側) 海側壁面 写真(範囲D)

# 2.2.1 地層区分の整理

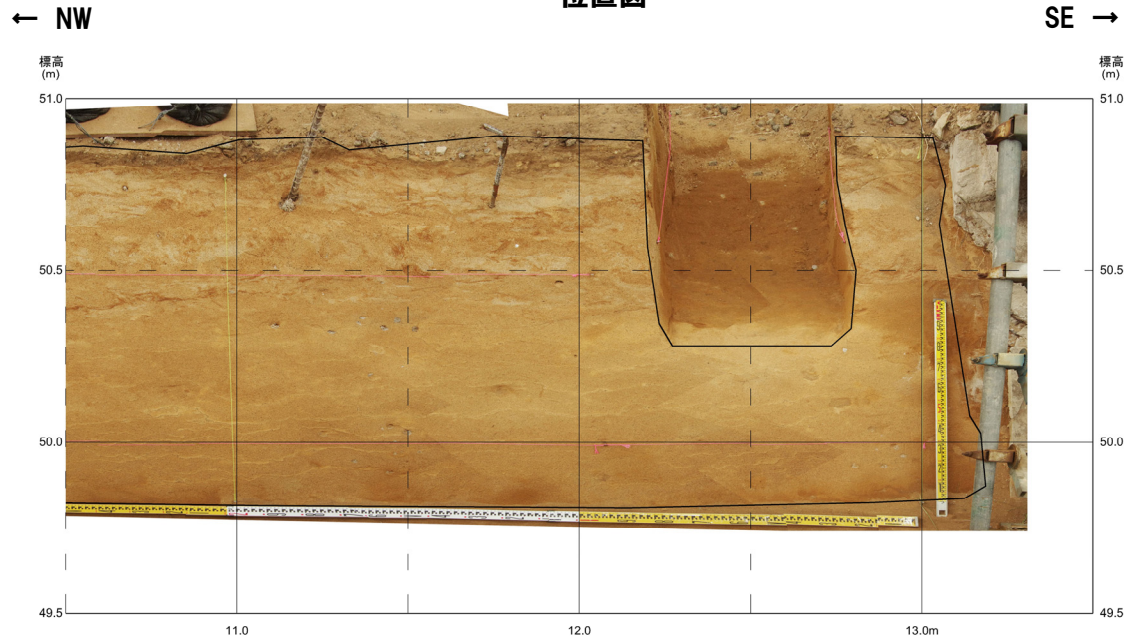
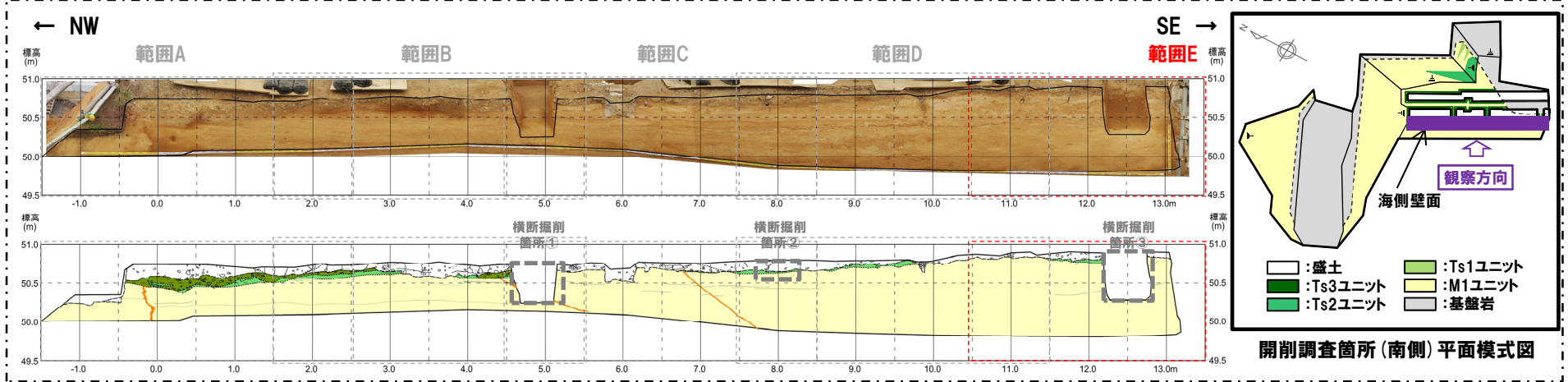
## ②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (8/10)



開削調査箇所(南側)海側壁面 スケッチ(範囲D)

# 2.2.1 地層区分の整理

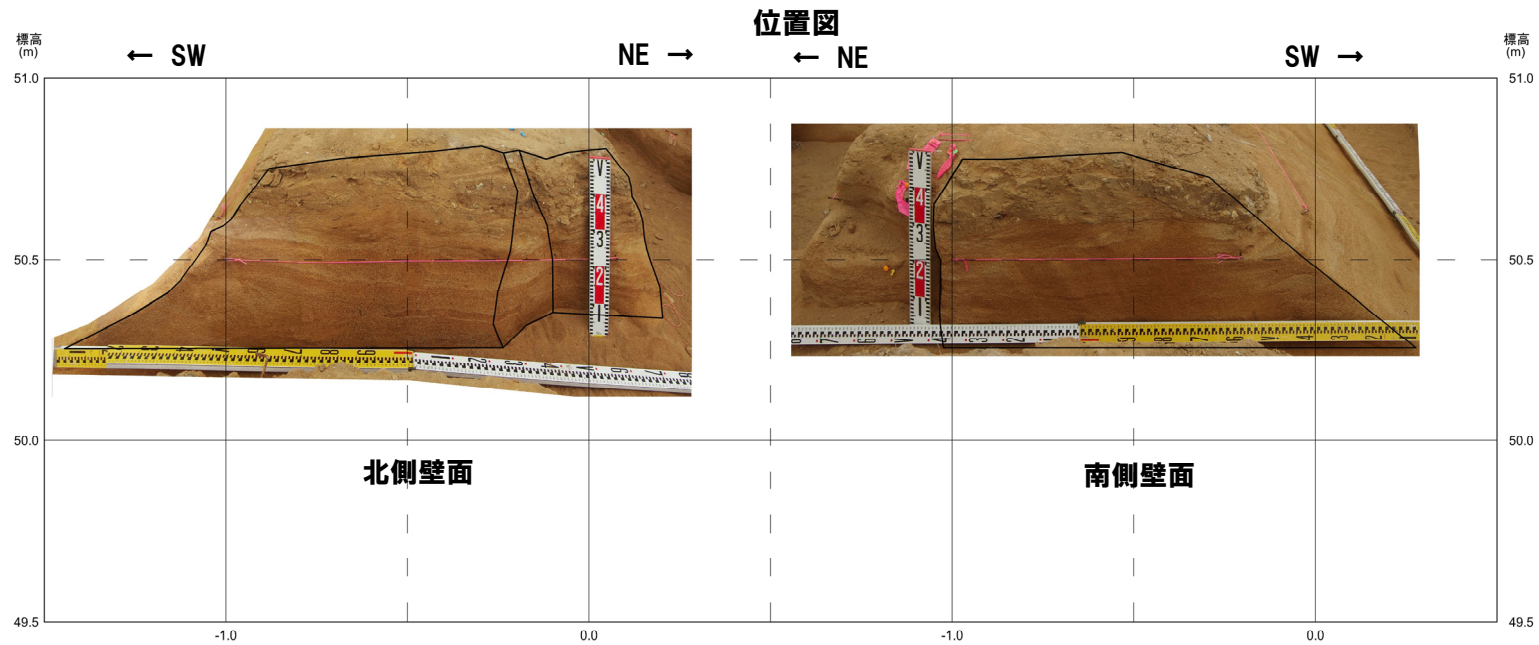
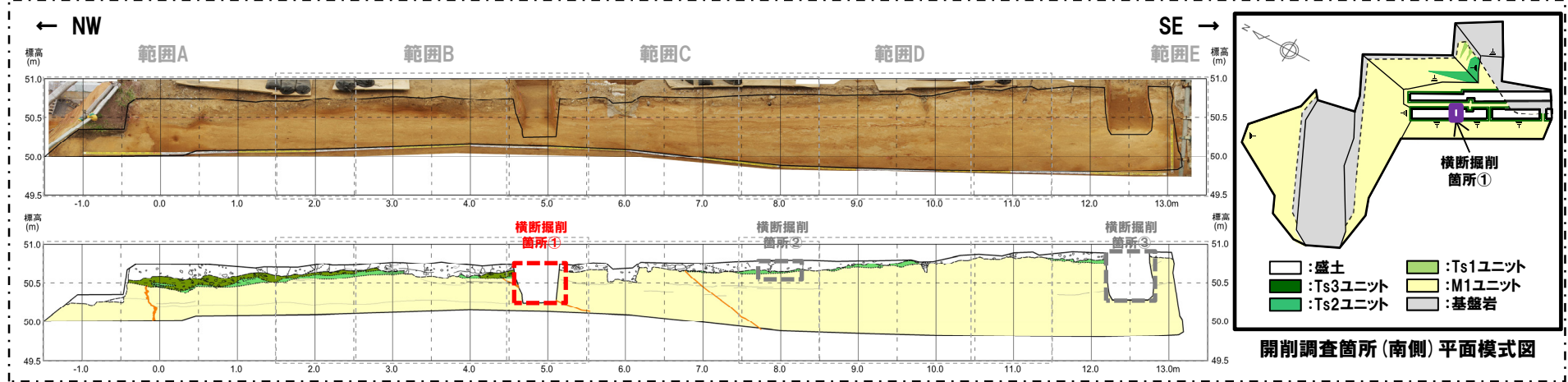
## ②-5 海側壁面 写真及びスケッチ (9/10)





# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-6 横断掘削箇所① 写真及びスケッチ (1/2)

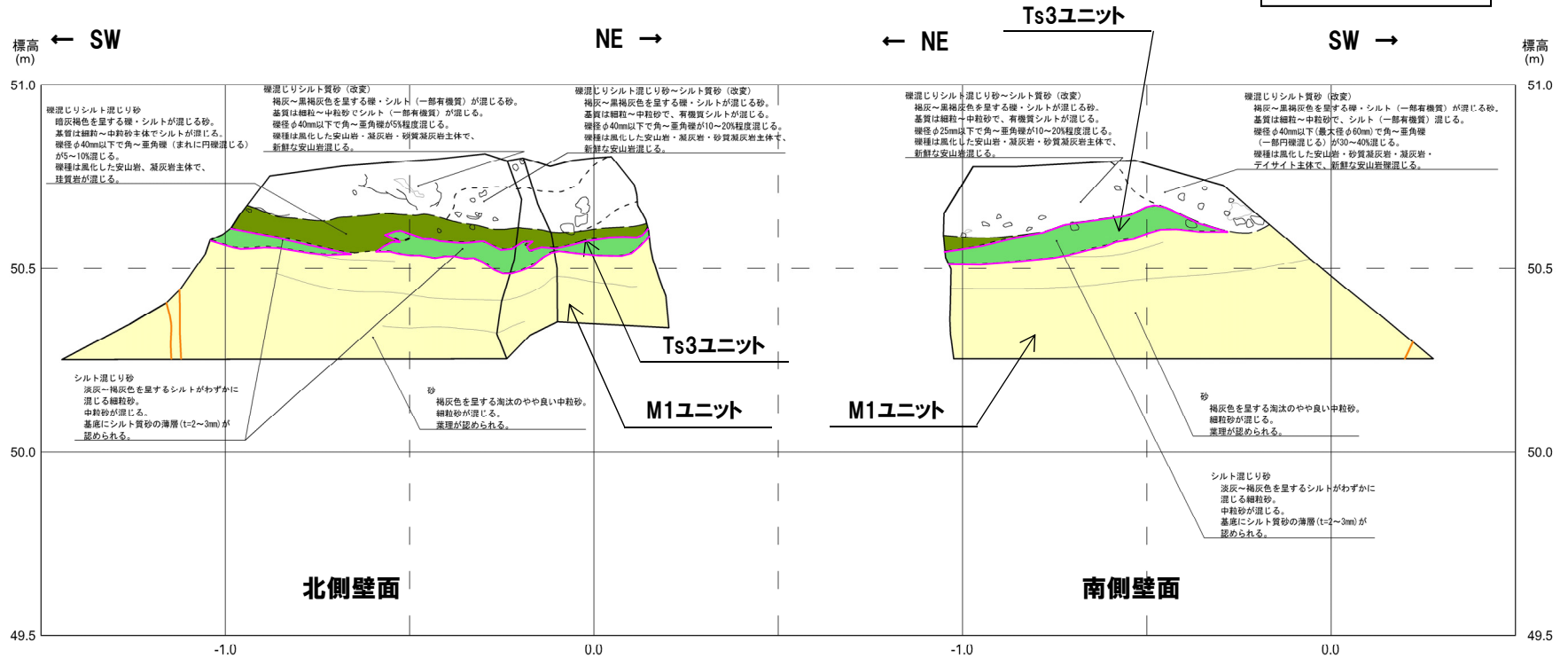
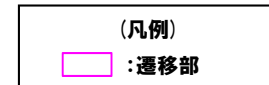
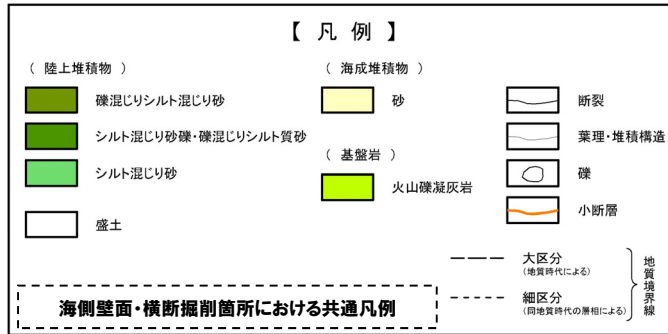


開削調査箇所(南側)横断掘削箇所① 写真



# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-6 横断掘削箇所① 写真及びスケッチ (2/2)

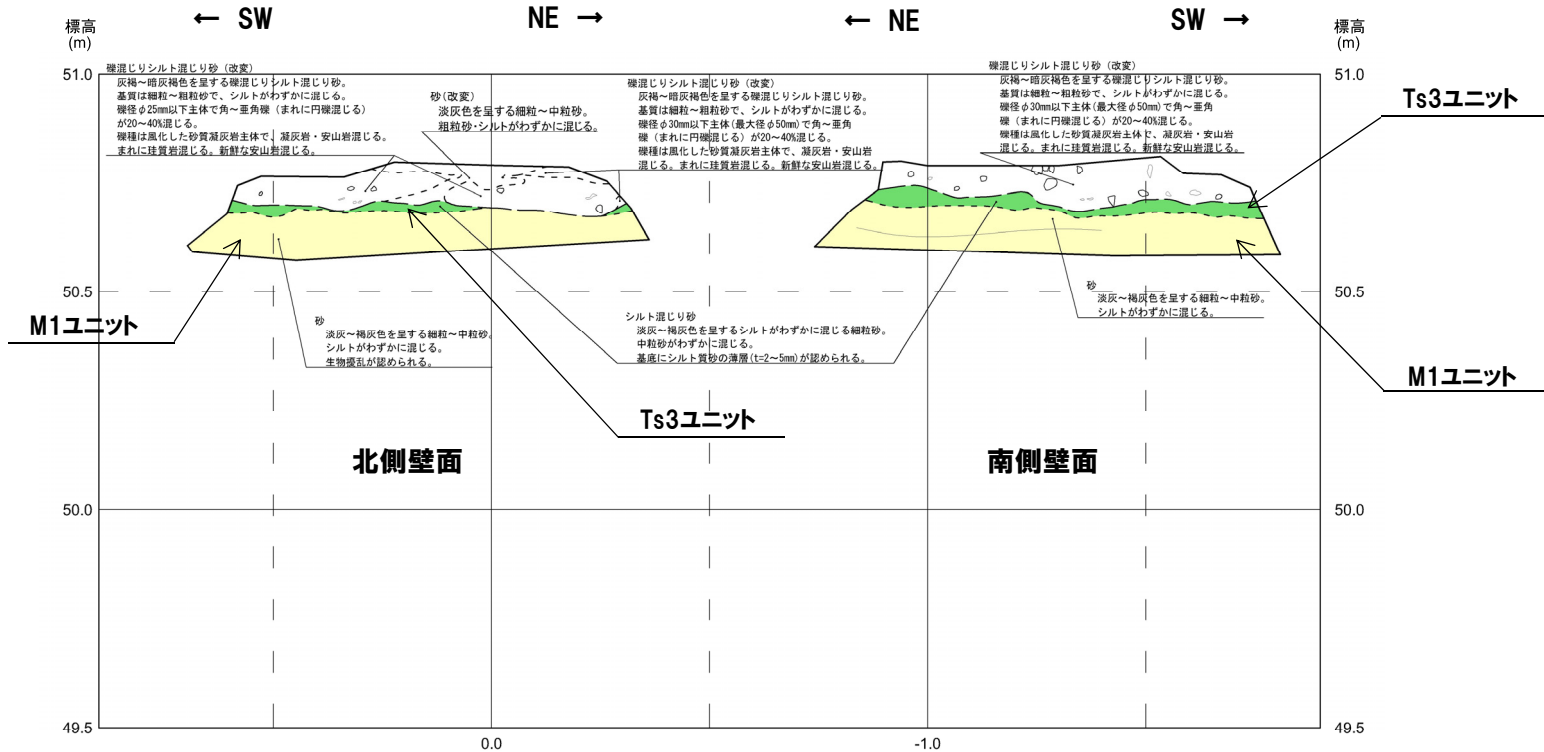
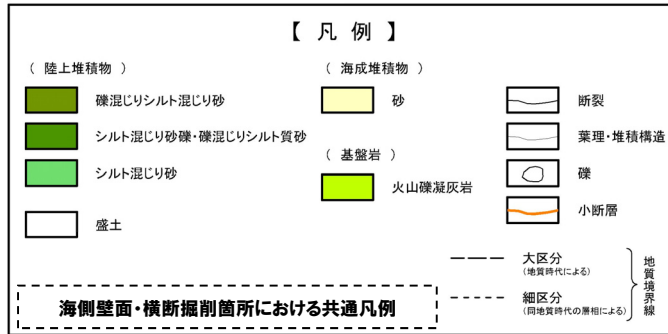


開削調査箇所(南側)横断掘削箇所① スケッチ



# 2.2.1 地層区分の整理

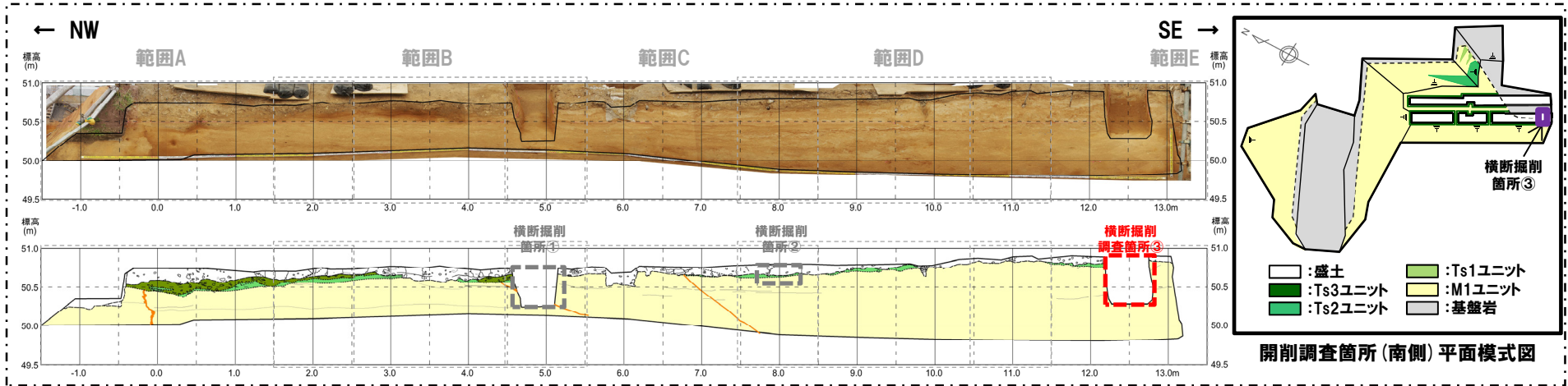
## ②-6 横断掘削箇所② 写真及びスケッチ (2/2)



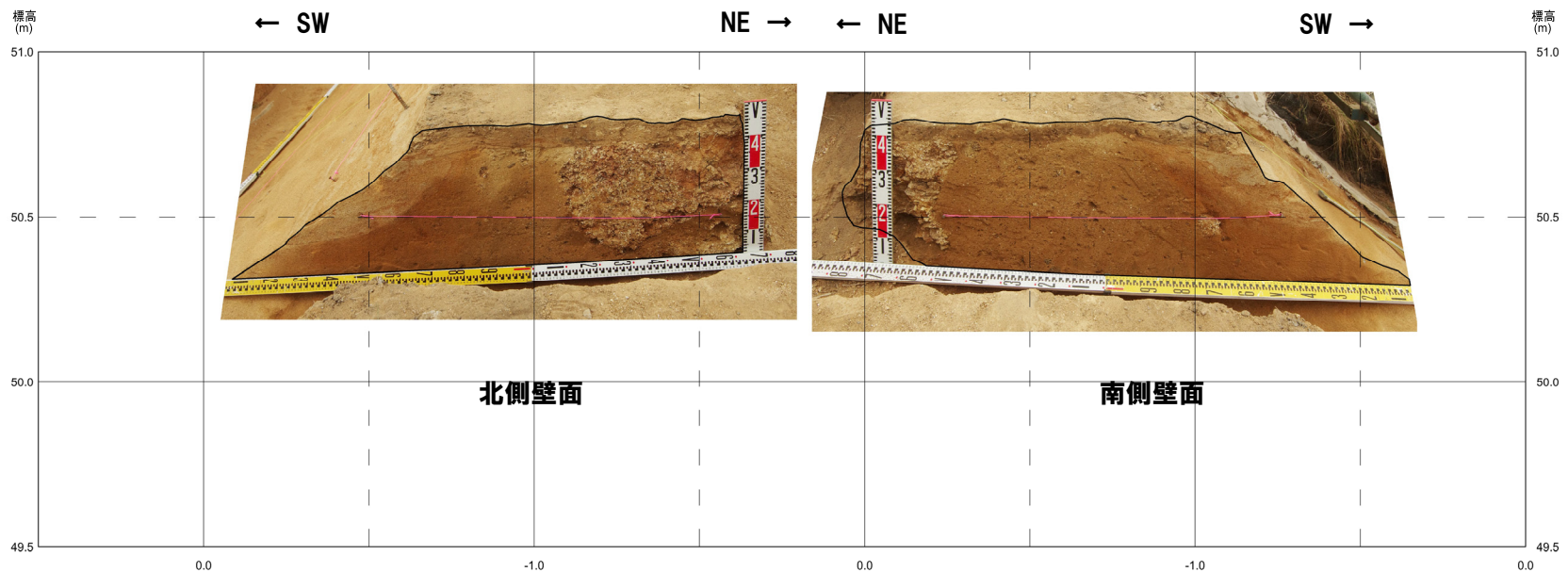
開削調査箇所(南側)横断掘削箇所② スケッチ

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-6 横断掘削箇所③ 写真及びスケッチ (1/2)



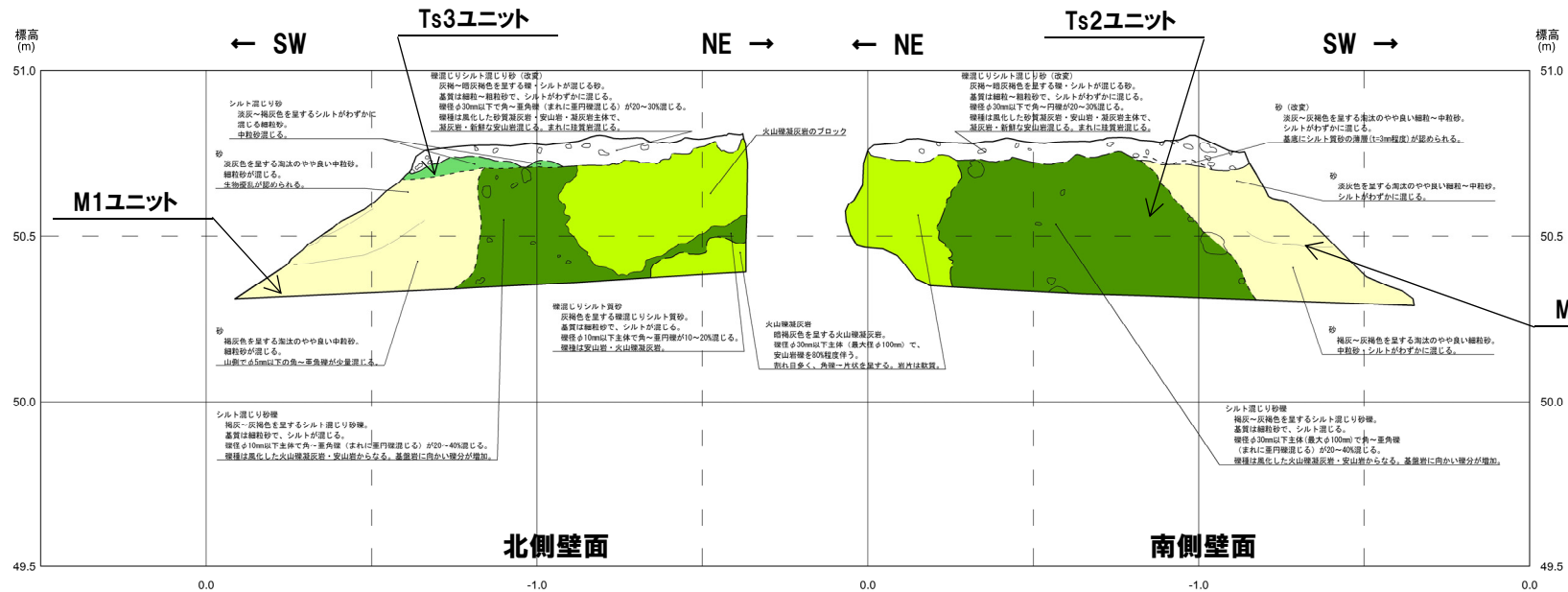
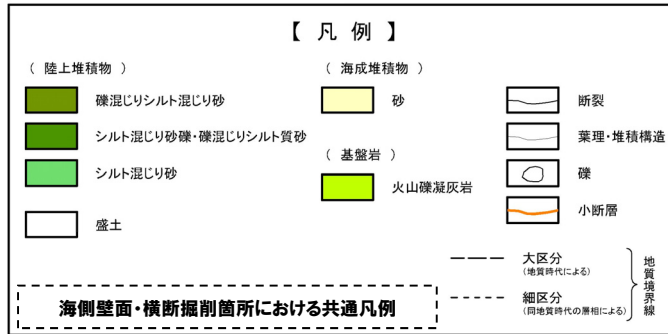
位置図



開削調査箇所(南側)横断掘削箇所③ 写真

# 2.2.1 地層区分の整理

## ②-6 横断掘削箇所③ 写真及びスケッチ (2/2)

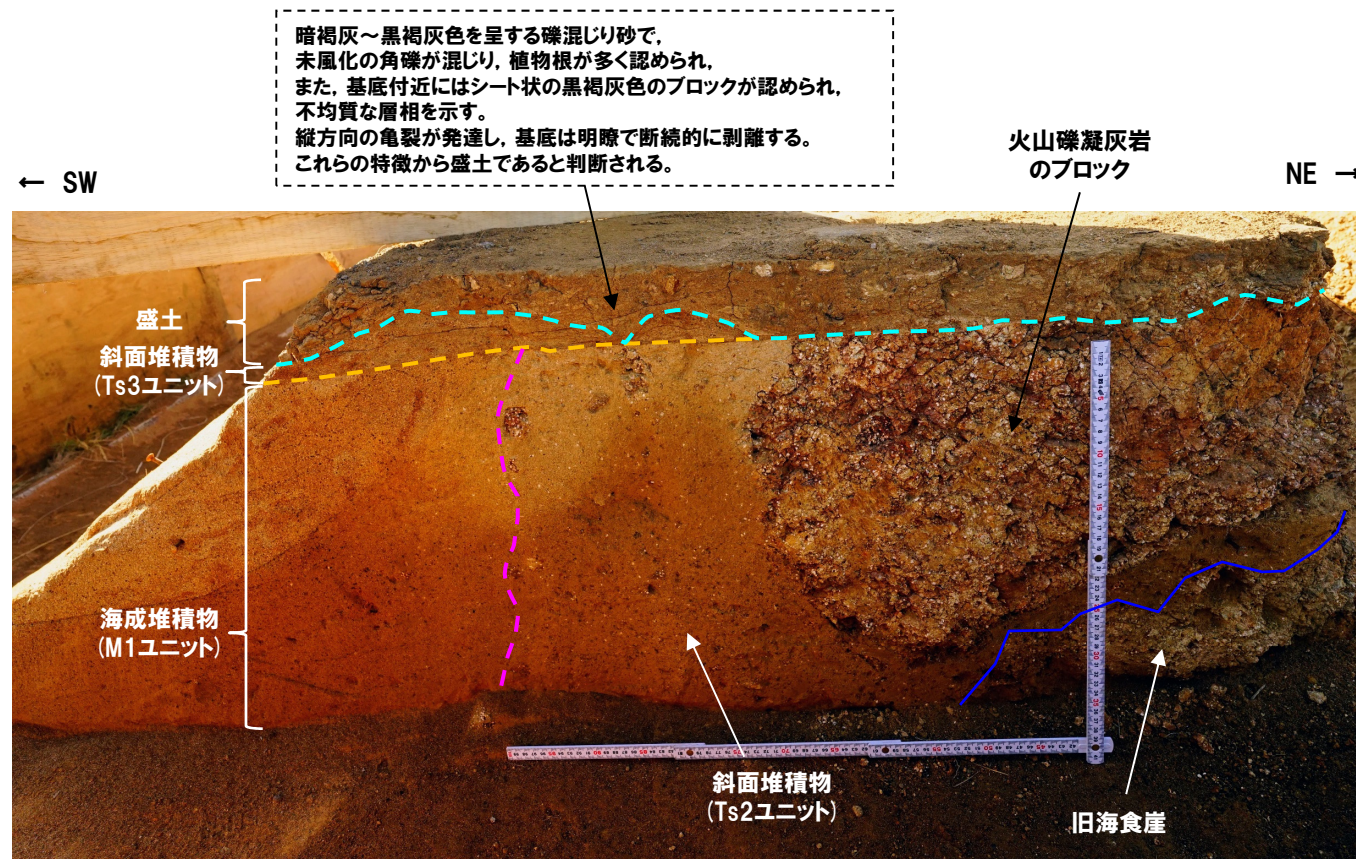


開削調査箇所(南側)横断掘削箇所③ スケッチ

## 2.2.1 地層区分の整理

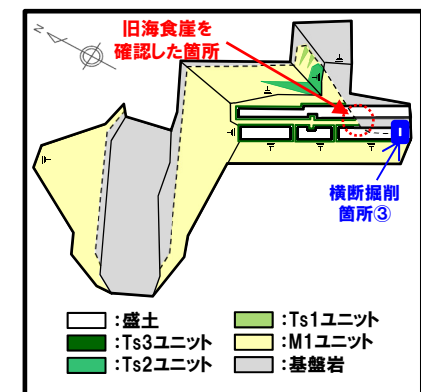
### (参考) 旧海食崖の南東側における盛土の分布状況 (1/2)

- 南側壁面の背後法面において旧海食崖を確認した箇所の南東側における盛土の分布状況について、R2.4.16審査会合以降に実施した横断掘削箇所③において確認した。
- 当該箇所海側においては、下位よりTs2ユニットと同標高に分布するものと考えられる斜面堆積物、M1ユニット、Ts3ユニット及び盛土が認められる。
- 当該箇所の南側壁面においては、旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩の上位に直接盛土が分布する状況が認められる(前頁参照)。
- なお、開削調査箇所(南側)付近においては、敷地造成時に基盤岩を含め約5~15mの切り取りがなされており(P463参照)、切り取り後、一様に盛土がなされている。



拡大写真(横断掘削箇所③ 北側壁面)(解釈線あり)

令和2年6月撮影



開削調査箇所(南側)平面模式図

## 2.2.1 地層区分の整理

(参考) 旧海食崖の南東側における盛土の分布状況 (2/2)

← SW



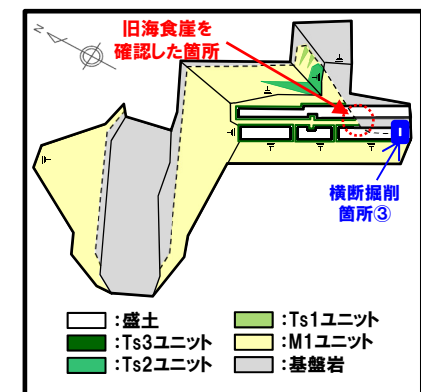
NE →

拡大写真(横断掘削箇所③ 北側壁面)(解釈線なし)

令和2年6月撮影



横断掘削箇所③



開削調査箇所(南側)平面模式図

## 2.2.2 地層区分の妥当性

### 地層区分の妥当性-まとめ(1/2)-

- 詳細スケッチに示した地層区分の妥当性を確認するため、各種観察・分析・測定を実施した。
- また、追加開削調査箇所に認められるM1ユニットに挟在する斜面堆積物についても、各種観察・分析を行い、Ts1～Ts3ユニットとの比較を実施した。
- 各種観察・分析・測定結果を次頁表に示す。
- また、次頁表には、既往の各種観察・分析・測定(R2.4.16審査会合以前)の結果※についても、併せて示す。

※詳細はR2.4.16審査会合資料本編資料のうち、4.2.2章に掲載。

- Ts3ユニットは、以下の状況から、下位のM1ユニット及び上位の盛土とは明確に区別される。
  - ・盛土は、粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が卓越して多い箇所や認められない箇所が不規則に分布し、Ts3ユニットとは特徴が異なる。
  - ・M1ユニットは、粒子間が空隙となっており、粘土鉱物は認められず、Ts3ユニットとは特徴が異なる。
  - ・M1ユニット及び盛土は、Ts3ユニットに比べ、硬度指数が小さい傾向が認められ、盛土は、硬度指数のバラつきが大きい。
  - ・盛土中には、洞爺火山灰の混在が認められるものの、Ts3ユニットには、洞爺火山灰は認められない。
- Ts3ユニットは、Ts1ユニット及びTs2ユニットと、以下の点において同様な特徴が認められる。
  - ・砂粒径の碎屑物及び粘土鉱物から構成される。
  - ・旧海食崖を形成する基盤岩由来と考えられる礫が認められる。
  - ・礫の円磨度は、開削調査箇所(南側)南側壁面に認められるM1ユニットと比較して、値が低い傾向が認められる。
  - ・洞爺火山灰は認められない。
  - ・重鉱物の屈折率は、概ね同様な範囲に分布し、特有なピークは認められない。
  - ・重鉱物の主元素組成の各分布範囲は、概ね同様である。
- Ts1ユニット及びTs2ユニットには、Ts3ユニットと同様な特徴を有する遷移部は確認されない(P38参照)ものの、層相確認及び上記の各種観察・分析において同様な特徴が多く認められることを踏まえると、Ts1～Ts3ユニットは、いずれも旧海食崖付近という同一堆積場において、旧海食崖を形成する基盤岩由来の堆積物からなる斜面堆積物と判断される。
- また、追加開削調査箇所に認められるM1ユニットに挟在する斜面堆積物は、Ts1ユニット、Ts2ユニット及びTs3ユニットと、以下の点において同様な特徴が認められる。
  - ・旧海食崖を形成する基盤岩由来と考えられる礫が認められる。
  - ・下位のM1ユニットを侵食している。
  - ・礫の円磨度は、開削調査箇所(南側)南側壁面に認められるM1ユニットと比較して、値が低い傾向が認められ、Ts2ユニット及びTs3ユニットと概ね同様な値を示す。
  - ・重鉱物の屈折率は、概ね同様な範囲に分布し、特有なピークは認められない。
  - ・重鉱物の主元素組成の各分布範囲は、概ね同様である。

- 詳細スケッチに示したM1ユニット、Ts3ユニット及び盛土の地層区分は妥当であると判断される。



# 2.2.2 地層区分の妥当性

## 地層区分の妥当性-まとめ(2/2)-

調査箇所	地層区分	ユニット区分	薄片観察	礫種・礫の形状調査	硬度測定	火山灰分析		
						火山ガラス	重鉱物	
開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面	盛土	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が薄片試料全体に認められるもの、卓越して多い箇所や認められない箇所が不規則に分布する</li> <li>角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が混じる</li> <li>水平方向に連続する空隙が認められる</li> </ul>	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ts3ユニットに比べ、硬度指数が小さい傾向が認められる</li> <li>M1ユニット及びTs3ユニットに比べ、硬度指数のバラつきが大きい傾向が認められる</li> </ul>	洞爺火山灰が認められる	-	
	斜面堆積物	Ts3	<ul style="list-style-type: none"> <li>角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる</li> <li>粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められ、局所的に濃集する</li> <li>旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる垂角～垂円礫が認められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【礫種】</li> <li>・主要構成礫 ⇒旧海食崖を形成する基盤岩の岩種(砂質凝灰岩礫)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【礫の形状】</li> <li>・球形度の平均値:0.67</li> <li>・円磨度の平均値:0.36</li> <li>・円磨度は、開削調査箇所(南側)南側壁面に認められるM1ユニットと比較して、値が低い傾向が認められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>M1ユニット及び盛土に比べ、硬度指数が大きい傾向が認められる</li> </ul>	洞爺火山灰は認められない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屈折率は、Ts1ユニット及びTs2ユニットと概ね同様な範囲に分布し、特有なピークは認められない</li> <li>・主元素組成の各分布傾範囲は、Ts1ユニット及びTs2ユニットと概ね同様である</li> </ul>
		(遷移部) 下部	<ul style="list-style-type: none"> <li>丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、角ばった砂粒径の碎屑物が少量混じる</li> <li>粒子間に少量の粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められる</li> </ul>					
	堆積物 海成	M1	<ul style="list-style-type: none"> <li>丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、粒子の縁に泥粒径の碎屑物がわずかに認められる</li> <li>・粒子間は空隙となっており、粘土鉱物は認められない</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【礫種<sup>※2</sup>】</li> <li>・主要構成礫 ⇒安山岩礫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【礫の形状<sup>※2</sup>】</li> <li>・球形度の平均値:0.59～0.62</li> <li>・円磨度の平均値:0.58～0.62</li> <li>・円磨度は、Ts1ユニット、Ts2ユニット及びTs3ユニット並びに追加開削調査箇所に認められる斜面堆積物と比較して、値が高い傾向が認められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>Ts3ユニットに比べ、硬度指数が小さい傾向が認められる</li> </ul>	-	-
	斜面堆積物	Ts2	<ul style="list-style-type: none"> <li>主に細粒～中粒砂粒径の碎屑物及び粘土鉱物から構成される</li> <li>旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる礫及び岩片が多く認められる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【礫種】</li> <li>・主要構成礫 ⇒旧海食崖を形成する基盤岩の岩種(砂質凝灰岩礫) 珪質岩礫</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【礫の形状】</li> <li>・球形度の平均値:0.62</li> <li>・円磨度の平均値:0.47</li> <li>・円磨度は、開削調査箇所(南側)南側壁面に認められるM1ユニットと比較して、値が低い傾向が認められ、追加開削調査箇所に認められる斜面堆積物と概ね同様な値を示す</li> </ul>	-	洞爺火山灰は認められない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屈折率は、Ts3ユニットと概ね同様な範囲に分布し、特有なピークは認められない</li> <li>・主元素組成の各分布傾範囲は、Ts3ユニットと概ね同様である</li> <li>・斜方輝石の含有量は一部例外は認められるものの、Ts2ユニットが認められる範囲においては、減少する傾向が認められる</li> </ul>
Ts1		<ul style="list-style-type: none"> <li>主に旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる礫及び粘土鉱物から構成され、細粒砂粒径の碎屑物をわずかに伴う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【礫種】</li> <li>・主要構成礫 ⇒旧海食崖を形成する基盤岩の岩種(火山礫凝灰岩礫)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【礫の形状】</li> <li>・球形度の平均値:0.63</li> <li>・円磨度の平均値:0.29</li> <li>・円磨度は、開削調査箇所(南側)南側壁面に認められるM1ユニットと比較して、値が低い傾向が認められる</li> </ul>	-	洞爺火山灰は認められない	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屈折率は、Ts3ユニットと概ね同様な範囲に分布し、特有なピークは認められない</li> <li>・主元素組成の各分布傾範囲は、Ts3ユニットと概ね同様である</li> </ul>	
追加開削調査箇所	斜面堆積物 <sup>※1</sup>	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>【礫種】</li> <li>・主要構成礫 ⇒旧海食崖を形成する基盤岩の岩種(砂質凝灰岩礫)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>【礫の形状】</li> <li>・球形度の平均値:0.63</li> <li>・円磨度の平均値:0.36～0.42</li> <li>・円磨度は、開削調査箇所(南側)南側壁面に認められるM1ユニットと比較して、値が低い傾向が認められ、開削調査箇所(南側)南側壁面の背後法面に認められるTs2ユニット及びTs3ユニットと概ね同様な値を示す</li> </ul>	-	-	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屈折率は、Ts1ユニット、Ts2ユニット及びTs3ユニットと概ね同様な範囲に分布し、特有なピークは認められない</li> <li>・主元素組成の各分布傾範囲は、Ts1ユニット、Ts2ユニット及びTs3ユニットと概ね同様である</li> <li>・斜方輝石の含有量は、斜面堆積物が認められる範囲において減少する傾向が認められる</li> </ul>

青書きはTs3ユニットと異なる特徴  
朱書きはTs3ユニットと同様な特徴

□ : R2.4.16審査会合以前に調査を実施した項目

※1 層相確認及びはざとり転写試料観察の結果、以下の特徴が認められる(詳細はP190～P201参照)。  
 ・旧海食崖を形成する基盤岩由来と考えられる礫が認められる  
 ・基盤岩由来ではない新鮮な礫を含む  
 ・基底面は下位の海成堆積物(M1ユニット)を侵食している

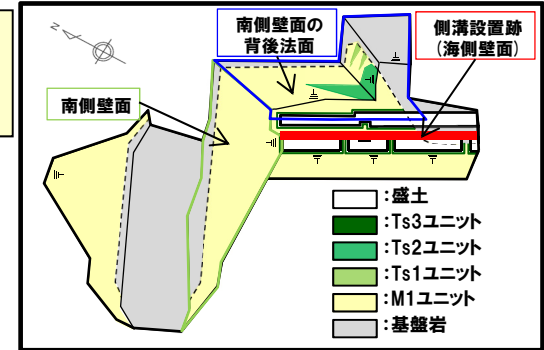
※2 海成堆積物(M1ユニット)の礫種・礫の形状調査は、南側壁面で行ったものである。

余白

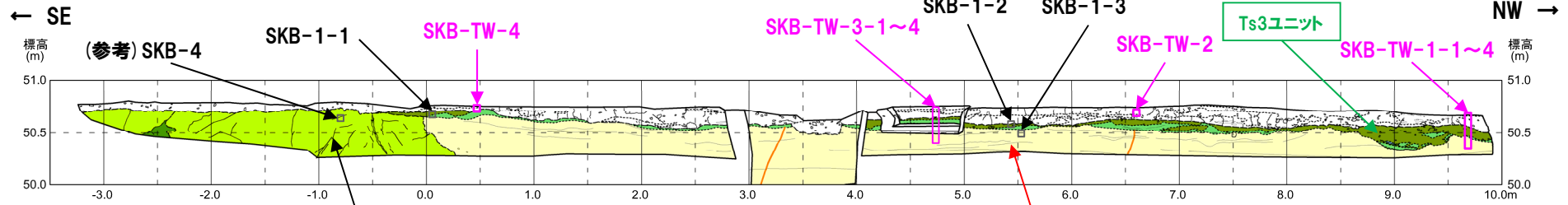
# 2.2.2 地層区分の妥当性

## ①薄片観察-まとめ(1/3)-

- 盛土, Ts3ユニット(遷移部含む)及びM1ユニットについて, より微細な特徴を明らかにするため, 薄片観察を行った。
- 薄片観察の結果, 各堆積物及び盛土には異なる特徴(次頁参照)が認められる。

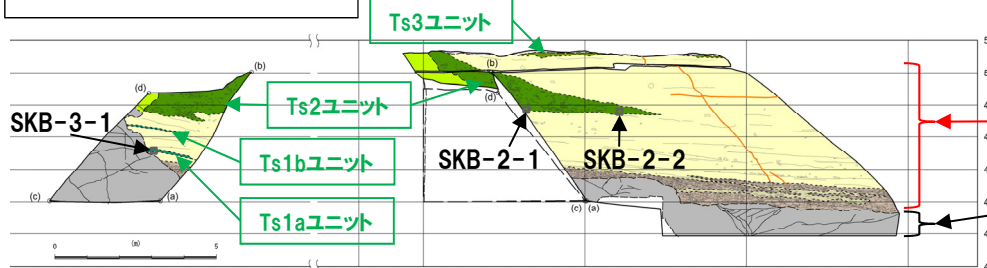


開削調査箇所(南側)平面模式図

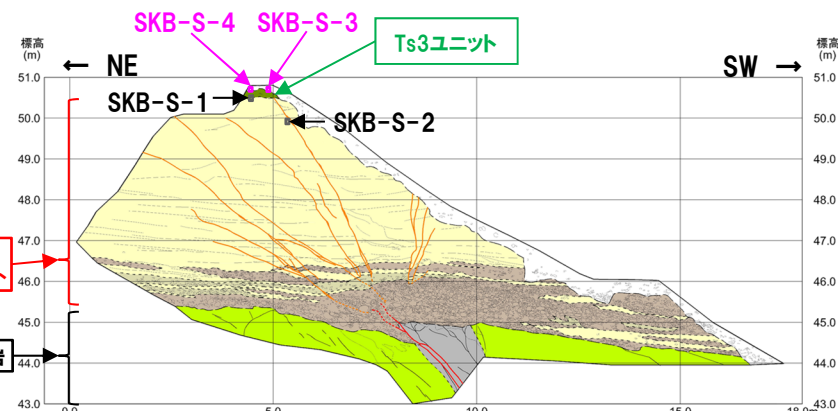


- (凡例) 調査項目
- 既往調査 (R2.4.16審査会合以前)
  - : 薄片観察
  - 追加調査 (R2.4.16審査会合以降)
  - : 薄片観察

- 【凡例】
- (陸上堆積物) 礫混じりシルト混じり砂, 礫質シルト混じり砂, 礫質砂
  - (海成堆積物) 砂礫, 礫混じり砂 (礫質シルト混じり砂と類似), 砂
  - (基盤岩) 火山礫凝灰岩, 砂質凝灰岩
  - 断層, 小断層, 大区分 (境界線のみ), 細区分 (境界線のみ)
  - 埋理・地層構造, 礫



開削調査箇所(南側) 南側壁面の背後法面 壁面スケッチ



開削調査箇所(南側) 南側壁面 壁面スケッチ

## 2.2.2 地層区分の妥当性

### ①薄片観察-まとめ(2/3)-

○南側壁面及び南側壁面の背後法面における薄片観察の結果、盛土、Ts3ユニット、遷移部(Ts3ユニット)及びM1ユニットの特徴を下表に整理した。

#### 薄片観察結果

地層区分	ユニット区分		特徴
盛土	—		<ul style="list-style-type: none"> <li>粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が薄片試料全体に認められ、局所的に卓越して多い箇所が認められる</li> <li>粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められない箇所が不規則に分布する</li> <li>角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が混じる</li> <li>盛土敷均しの影響を受けているものと考えられる粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物からなる薄層及び腐植土が認められる</li> <li>水平方向に連続する空隙が認められる</li> <li>植物片が認められる</li> </ul>
斜面堆積物	Ts3	上部	<ul style="list-style-type: none"> <li>角ばった砂粒径の碎屑物を主体とし、丸みを帯びた砂粒径の碎屑物が少量混じる</li> <li>粒子間に粘土鉱物及び泥粒径の碎屑物が認められ、局所的に濃集する</li> <li>旧海食崖を形成する基盤岩である火山礫凝灰岩由来と考えられる垂角～垂円礫が認められる</li> </ul>
		下部 (遷移部)	<ul style="list-style-type: none"> <li>丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、角ばった砂粒径の碎屑物が少量混じる</li> <li>粒子間に少量の泥粒径の碎屑物及び粘土鉱物が認められる</li> </ul>
海成堆積物	M1		<ul style="list-style-type: none"> <li>丸みを帯びた砂粒径の碎屑物を主体とし、粒子の縁に泥粒径の碎屑物がわずかに認められる</li> <li>粒子間は空隙となっており粘土鉱物は認められない</li> <li>酸化鉄の沈着が認められる</li> </ul>



(次頁へ続く)